佐賀県文化財調査報告書第68集

# 町南遺跡

県立中原養護学校建設に伴う 埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 概 要

1983年

佐賀県教育委員会

## 町南遺跡

県立中原養護学校建設に伴う 埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 概 要

1983年

佐賀県教育委員会

昭和54年4月からの養護教育の義務化に伴ない、三養基郡中原町 の国立東佐賀病院に隣接して病虚弱児童の就学を目的とした、県立 中原養護学校が開校しました。校舎・管理棟・体育館等諸施設の建 築予定地は埋蔵文化財包蔵地であるため発掘調査を実施して、遺跡 の性格を明らかにしその詳細を記録にとどめました。

従来、中原町周辺は遺跡の宝庫として知られており建設予定地も 例外ではなく、巨大な溝によって区画された弥生時代の大集落が掘 り出されました。最近、県内でも大きな集落跡の発掘があいつぎ、 次第に原始・古代の人々の生活が明らかになりつつあり、この町南 遺跡での成果も研究上重要な資料になるものと信じます。

ここに発掘調査概要報告書を刊行し、学術資料として、また県民 の共有財産としての文化財を、大切に保存してゆくための資料とし て役立てていただければ幸いです。

この調査にあたっては中原町役場をはじめ、地元の方々の深いご 理解と献身的なご協力をえました。心からお礼申し上げるとともに、 I次調査の折、現地で調査の指揮をとられ、昭和55年2月不帰の客 となられた前県文化財調査監木下之治先生に対し、心から哀悼の意 を表します。

昭和58年3月

佐賀県教育委員会 教育長 古 藤 浩

#### 例 言

- 1. 本書は、佐賀県立中原養護学校建設に伴い昭和50・52・55年度に実施した町南遺跡の発掘 調査概要報告書である。
- 2. 発掘調査には佐賀県教育委員会文化課があたった。文化課長田中寿義雄のもと、庶務は文 化課庶務係があたり、調査には下記の者があたった。

I 次調查……文化財調查監木下之治·天本洋一

Ⅱ次調査……文化財調査係長高島忠平・天本洋一(担当)

Ⅲ次調査……課長補佐高島忠平・(刺文化財調査第一係長樋渡敏暲・七田忠昭(担当)
なお調査にあたっては、中原町役場・中原養護学校などの機関・西村隆司・盛峰雄・堤
安信・服部政明・神代京子その他の人々の協力を得た。

3. 本書の執筆はつぎのとおりである。

I 1 · II 3 · 4 · 5 · 7 、 II 2 · 3 · · · · · 七田忠昭 (調査第一係 文化財保護主事)

I 2、 II 1 · 2 · 6 、 III 1 、 IV · · · · · · · · 天本洋一 (調査第二係 文化財保護主事)

4. 遺構の実測、写真撮影には主に調査員があたり、記録類や遺物の整理は文化財資料室でおこなった。遺物の実測には藤原倫子・江副悦子・蒲原淑子・野口百合子・尾形郁子・武藤直子・馬場美奈子・青木瑞枝・山本タカ子・福島憲子などがあたり、製図・トレースには藤原倫子・野口悦子・江副悦子・貞包洋子・六田育子・本田京子・友貞菜穂子・矢野佳代子が、遺物の復元には宮崎礼子・広滝敏子・高畠澄子・古川万鶴代・村瀬邦子・新井久美・土井マサ子・池田覚子が、遺物の写真撮影・現像には原口定・古賀栄子があたった。

#### 月. 例

- 1. I・Ⅱ次調査の遺構番号は後の整理で変更したので、堅穴住居跡・据立柱建物跡・貯蔵穴 跡一覧表に、新旧番号を記した。Ⅲ次調査の遺構番号はS D 042 (B) をS D 066とした以外 は変更はない。
- 遺構は、SB…堅穴住居跡・掘立柱建物跡、SK…貯蔵穴・土壙、SD…溝、SP…石蓋 土壙墓、ST…古墳、SX…周溝・性格不明なもの、の分類記号で示す。
- 3. 遺物実測図のうち Fig 18・19・20・23・24・26には個々の番号の下に出土遺構番号を記した。その中で I 区・Ⅲ区とあるのは、それぞれ I 次調査区内表面採集・Ⅲ次調査区内表面採集のものである。

### 本 文 目 次

-	37.7									 1.77
${\rm I\hspace{1em}I}.$	遺	構…								 4
1		遺構	の概要…							 4
2		住居	跡							 4
3		掘立	柱建物路	ķ						 10
4		貯蔵	穴跡							 12
5		溝跡								 16
6		周溝								 17
7		石蓋	土壙墓・・							 18
8		古墳								 18
${\rm I\hspace{1em}I\hspace{1em}I}.$	遺	物…								 20
1		土器	・土製品	······						 20
2		石器	・石製品	h						 26
IV.	お	わり	r							 29
				+#	e 18	ज्य <b>ा</b>		16-		
				押	1 [	즤	目	八		
Fig.	1									
	2	門	南遺跡部	直区位	置図					 3
	3	別	南遺跡S	B 010	竪穴	住居路	<b>*</b> 実測	⊠		 5
	4									
	5	#J	南遺跡S	B 045	竪穴	住居路	<b>*</b> 実測	⊠		 6
	6									
	7	#J	南遺跡S	B 116	竪穴	住居路	<b>小実測</b>	図	•••••	 7
	8									
	9	町	南遺跡S	B 122	竪穴	住居路	李測	<b>Ø</b>		 8
	10	) <b>#</b> J	南遺跡S	B 141	掘立	柱建物	协助実	測図…		 11
	11	HJ	南遺跡別	放穴实	測図	(1)				 12
	12	門	南遺跡斯	茂穴実	測図	(2)				 13
	13	8 1100								
	14									
	15	#J	南遺跡S	P 227	石蓋	土壙茤	[ ]	図		 18
	16	<b>声</b>	南遺跡S	T 047	古墳	<b>着</b> 斤油	個量的			 19

Fig. 17	町南遺跡S T 047 古墳石室実測図 ······19
18	町南遺跡貯蔵穴出土土器実測図21
19	町南遺跡竪穴住居跡・溝・古墳出土土器実測図22
20	町南遺跡竪穴住居跡出土土器実測図23
21	町南遺跡S D 004・S D 223溝出土土器実測図24
22	町南遺跡S X 055 周溝出土土器実測図25
23	町南遺跡出土石器・石製品実測図 (1)26
24	町南遺跡出土石器・石製品実測図 (2)27
25	町南遺跡SB103 竪穴住居跡出土銅境片拓影······28
26	町南遺跡出土鉄器実測図28
	表 目 次
Tab. 1	町南遺跡竪穴住居跡一覧表9
2	町南遺跡掘立柱建物跡一覧表11
3	町南遺跡貯蔵穴跡一覧表14
	図 版 目 次
PL. 1	町南遺跡周辺航空写真
2	町南遺跡I次調査区
3	町南遺跡Ⅱ次・Ⅲ次調査区
4	町南遺跡SB010・056・123竪穴住居跡
5	町南遺跡SB009・044・103竪穴住居跡
6	町南遺跡SB111・122竪穴住居跡、SB062 掘立柱建物跡
7	町南遺跡貯蔵穴
8	町南遺跡貯蔵穴
9	町南遺跡溝
10	町南遺跡溝・周溝
11	町南遺跡石蓋土壙墓・土墳
12	町南遺跡竪穴住居跡・古墳出土土器
13	町南遺跡貯蔵穴・S D 066 溝出土土器
14	町南遺跡SD004・SD223 溝出土土器
15	町南遺跡S X 055 周溝出土土器
16	町南遺跡S D 042 溝出土土器・S K 235 土壙出土土鈴
17	町南遺跡出土石器・石製品
18	町南遺跡銅鏡・鉄器・炭化物
折り込み	町南遺跡遺構配置略図(1/500)
卷末付錫	町南遺跡遺構配置図(1/200)

#### I はじめに

#### 1. 位置と環境

町南遺跡は佐賀県三養基郡中原町大字原古賀字町南・三本松に存在する。佐賀平野東部の背振山地南麓には、山麓部から派生したいくつかの舌状段丘が水田面に突出するように存在しており、これらの段丘上には山麓部と同様に旧石器・縄文時代から中・近世にわたる各種の遺跡が密集している。中原町の中央部を南流する寒水川両岸の段丘も例にもれず、左岸の姫方段丘右岸の寒水段丘には、特に弥生時代の代表的な遺跡が群在する。左岸には北から香田・姫方・姫方原、右岸には上地西方・どんどん落・町南・天神・宝満谷などの墓地・集落があるが、500基以上の甕棺を出土した姫方遺跡と南方約400mに位置し約150軒の竪穴住居跡を出土した姫方原遺跡などのように、ある時期においては密接な関係をうかがえるものもある。

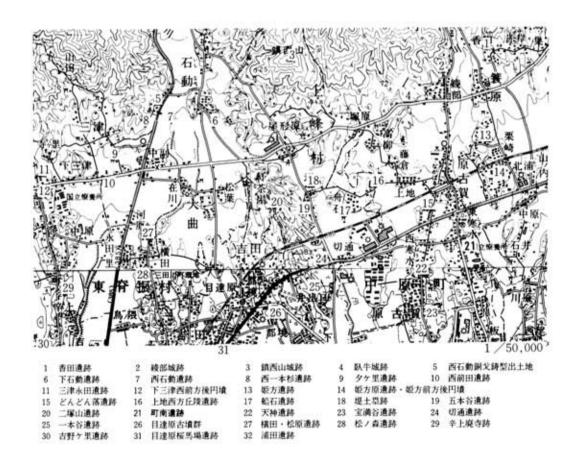


Fig 1 町南遺跡周辺地形と主要遺跡分布図

背振山地南麓では、この寒水川流域の段丘を境にして、東は鳥栖市柚比段丘までの間は弥生時代の遺跡は稀薄になるが、西は二塚山、横田、吉野ケ里など河川に狭まれた舌状段丘があり五本谷・二塚山・切通・横田・三津永田・吉野ケ里などの著名な弥生墓地が近接して存在する地域となっている。これら切通川と城原川に狭まれた地域の弥生墓地からは、現在までのところ、細形銅剣4本、漢式鏡14面、小形彷製鏡6面、鉄製武器、装身具多数を出土しており、弥生時代の中期以降には有力な集団が散在し、一つのまとまりある地域となっていた。

墓地にくらべて調査が遅れていたこの地域の弥生時代集落の調査も、大型の開発に伴なって 増加してきた。姫方原・宝満谷・一本谷・下石動・西石動・松ノ森・夕ケ里・西前田などが調 査され、前記の墓地群との関係もふまえて、次第にこの地域の状況が明らかになってゆきつつ ある。

古墳時代に入ると、西一本杉・姫方・五本谷・一本谷などで、初現的な古墳や方形周溝墓、 円形周溝墓も現われ、目達原古墳群の成立によってこの地域は政治的なまとまりを示すように なる。後期になると山麓部、段丘を中心に姫方・上地・下三津西・伊勢塚などの前方後円墳や 多くの群集墳が営なまれる。特に中原町北部山麓地域には山田・白虎谷・一本桜・小弐山・鳥 巣などの古墳群がある。古墳時代のまとまった集落の調査は周辺ではなされていない。

古代には塔ノ塚や辛上の廃寺、霊仙寺跡など奈良時代寺院や平安時代山岳仏教寺院など、上峰 東背振地域での繁栄が知られるが、中原町内にはきわだった遺跡はない。中世になって綾部城 と総称される中原町北部の諸山城周辺が佐賀平野東部の一大中心地となったようである。

#### 2. 調査に至る経過

町南遺跡は、三養基高校と図立東佐賀病院との中間、背振山系から舌状に延びる標高20m程の底位段丘上に位置している。この段丘上には、以前から遺跡の所在が知られていたが、その内容については明らかでなかった。1974年この場所に県立養護学校の建設が計画されたため、同年11月1日現地踏査を行ったが、建設予定地にはほぼ全域にわたり弥生土器、土師器、黒曜石が散布しており、弥生時代から古墳時代にかけての集落跡の所在が考えられた。この結果に基づいて、同年12月10日から20日にかけ、遺跡の範囲、内容についての確認調査を実施した。調査区の南側は、病院の職員住宅が建ち、北側は樫や竹などの雑木が繁っており、西側は看護学校の運動場が広がっていた。又雑木林の中に、900㎡にわたり深き 1.2mの土取り跡があった。確認調査は、学校建設予定地16.000㎡に70ケ所の試掘溝を設けた。試掘溝からは、弥生時代の住居跡や貯蔵穴の一部を検出し、遺跡は職員住宅地と雑木林の約10,000㎡に分布していることが明らかとなった。この結果に基づいて、学校建設について協議を行い、代替地についても検討したが、養護学校が国立東佐賀病院に隣接することが必要なことや、周囲に適地が確保できないなどの理由から当該地に建設することとなり、事前の発掘調査が必要となった。このため

学校施設の建設に合わせ調査区を数次に分け、年次に発掘調査を行うこととなった。各調査次の概要については下記のとおりである。

1次調査 北側の雑木林を中心に、1975年11月15日~1976年3月25日にかけ、管理棟及び教 室棟などの敷地約3,500㎡の発掘調査を実施し、住居跡38棟、掘立柱建物跡11棟、貯蔵穴72基、 溝4条、石蓋土壙基1基などを検出した。

2次調査 西側の職員住宅跡地に、1977年11月7日~11月28日にかけ、体育館などの敷地約 1,000㎡の発掘調査を実施し、住居跡2棟、掘立柱建物跡2棟、溝2条などを検出した。

3次調査 南側の職員住宅跡地に、1980年10月15日~1981年1月31日にかけ、体育施設用地 約 4,500㎡の発掘調査を実施し、住居跡28棟、掘立柱建物跡6棟、貯蔵穴15基、溝10条、周溝 2 基、古墳1 基などを検出した。

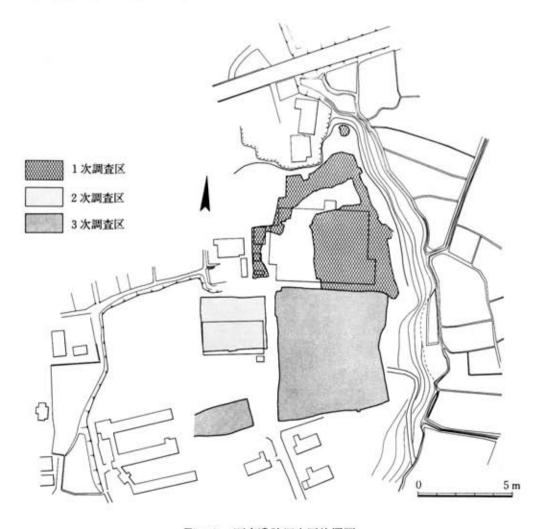


Fig 2 町南遺跡調査区位置図

#### Ⅱ 遺 構

#### 1. 潰構の概要

町南遺跡は寒水川の右岸、標高20m 程の底位段丘上に位置している。調査区は北側が雑木林、 南側が宅地跡であり、遺跡の残存状態は良かったが、調査区の北西部にL字状の土取跡があり、 この部分約 900m についての遺構は堙滅していた。又段丘上と東側水田との比高差は10m 程あ るが、東側は浸食を受け崖面となっており、この部分の遺構は堙滅している部分がある。

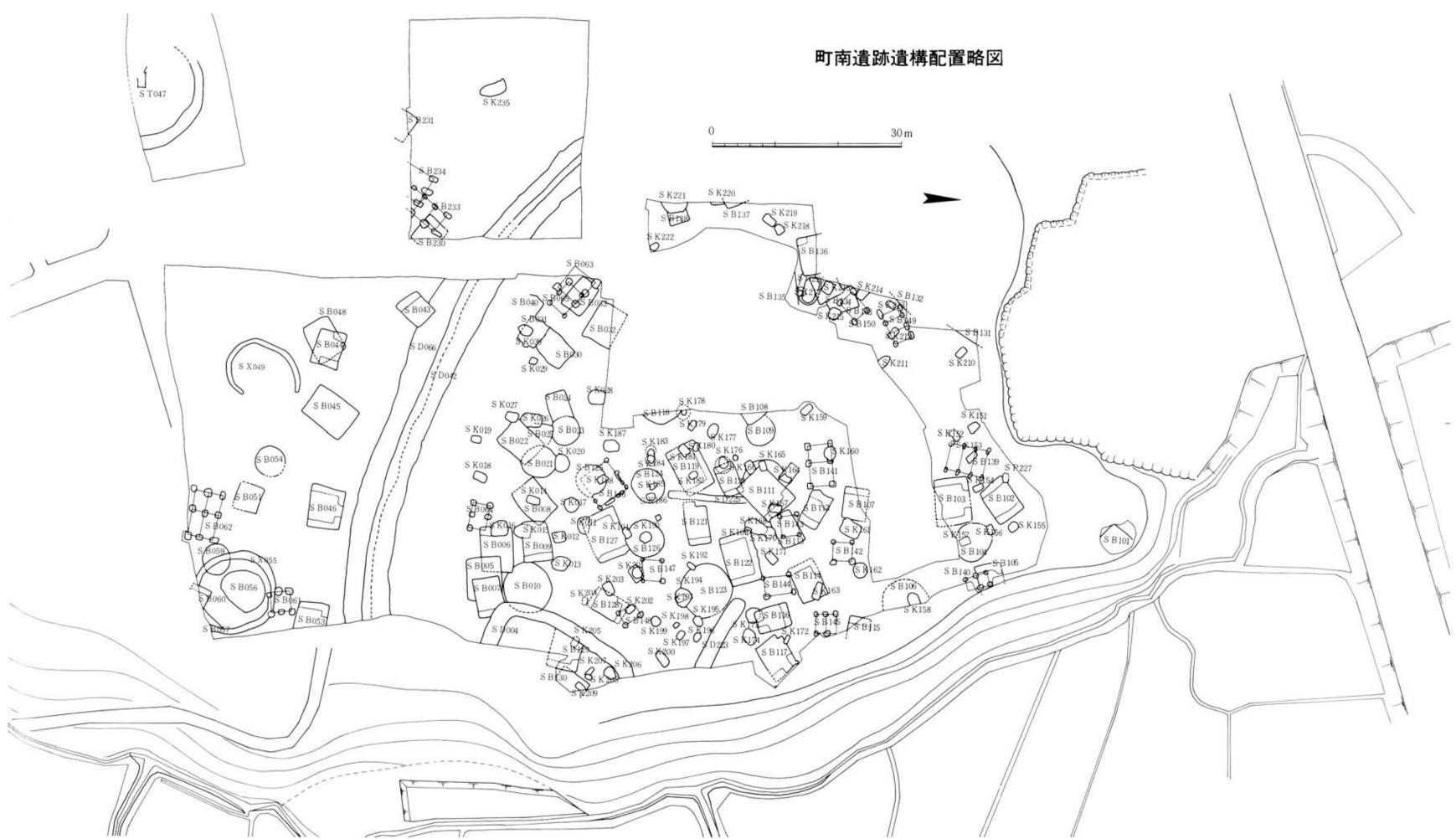
発掘調査は、1975年、1977年、1980年の3次にわたり約9,000㎡を行った。検出した遺構は住居跡68棟、掘立柱建物跡19棟、貯蔵穴87基、溝13条、周溝2基、石蓋土壤墓1基などである。遺構の分布状況を見ると、調査区の南側に1m程の段差があり、この部分に2条の溝(SD042.066溝)が重複しながら北西へと弧状にめぐり、一つの区画をなしている。住居跡、掘立柱建物跡は調査区の全域から検出されるが、SD042、066溝以北に多い。貯蔵穴は調査区に適当な間隔をもって分布するが、SD066溝以南には見られない。周溝はSD042溝の南側から、石蓋土壙墓は調査区の北端からの集落内から検出した。古墳は南西端に在り横穴式石室を内部主体とする。以下各遺構について説明を行う。

#### 2. 住 居 跡

住居跡はすべて堅穴住居跡である。1次調査で38棟、2次調査で2棟、3次調査で28棟の合計68棟を検出した。調査区の全域から検出されたが、SD042溝以北に多く、以南は少くなる。 住居跡の形態は、円形と長方形がある。円形の住居跡は弥生時代中期前半、長方形の住居跡は弥生時代後期である。

円形の住居跡は15棟を検出したが、この中で完据できた11棟について概略する。形態はほぼ正円であるが、楕円形の住居跡も2棟(SB056、104)在る。規模は、最大のSB123住居跡が直径 8.2m、面積52.1m。最小のSB125住居跡が直径 4.6m、面積16.6m。で、平均は直径5.9m、面積26.1m。である。柱の配置は、SB021、023、109住居跡のように主柱を方形に4本配すものと、SB010、123、126住居跡のように中央の土壌を囲んで8~10本の主柱を配し、主柱の外側に支柱を遡すものがある。さらにSB010住居跡は支柱と支柱を連絡する小溝を掘っており、支柱を補強していたか、排水として利用していたものであろう。出土遺物は、甕、壺、鉢、蓋の弥生土器がある。

長方形の住居跡は、53棟を検出した。この中で完掘できた33棟について概略する。住居跡の 規模は、最大のSB222 住居跡が長さ 8.0m、幅 5.4m、面積43.2m。 SB045 住居跡が長さ 7.74m、幅5.88m、面積45.4m。 最小のSB031 住居跡が長さ 4.3m、幅3.17m、面積13.6m。



で、平均は長さ 6.3m、幅 4.5m、面積28.9mである。住居跡の形態は長方形で、中央に炉を設け、長辺の南壁に沿い土壌をもつものが一般的であり、壁の内側にベット状遺構を設けることが多く、33棟中23棟に認めることができる。ベット状遺構の形には、I字、L字、コ字などがあり、設置する場所や形により13種に分類することができる。多いのはI字のベット状遺構を西側に設ける例が5例、L字状のベット状遺構を西側に設ける例が4例あるが、その他は1種に対し1~2例と分散する傾向がある。又ベット状遺構を設ける住居跡は、1次調査で17棟の内16棟があるのに対し、3次調査では16棟の内7棟と極端に少くなる。これは調査区の北側にベット状遺構を設ける住居跡が多く、南側は少くなるという傾向を示している。住居跡の建物方向は、桁行を東西に向ける住居跡が25棟、南北に向ける住居跡が7棟あり、東西方向の住居跡が多いが、東西方向の住居跡でも北東に傾ける住居跡が多く、N70°E~N80°Eの間に9棟が入る。張り出しを持つ住居跡としてSB111、121住居跡の2例がある。この内SB111 住居跡は、長辺の北側中央から長さ 3.6m、幅 1.8m の張り出し部があり、入口との関係で注目

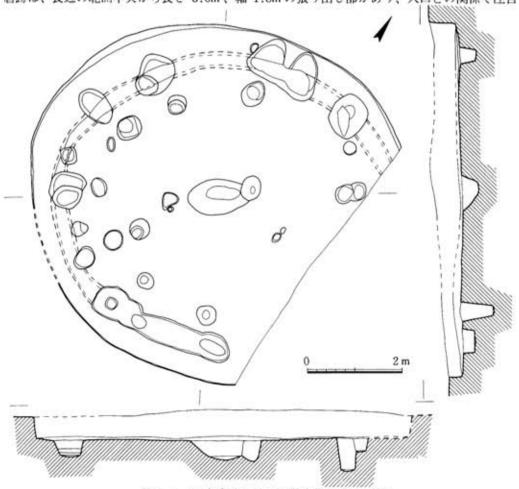
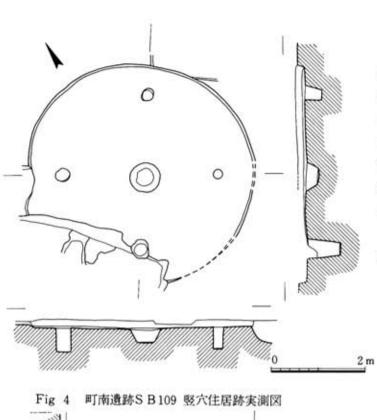


Fig 3 町南遺跡SB010 竪穴住居跡実測図



される。住居跡の柱穴 は確認できなかったも のが多いが、炉の両側 に2本の主柱を配置す るものが多い。出土遺 物は少ないが、甕、壺 鉢、高杯、器台などの 弥生土器の他、SB 103住居跡から出土し た鏡片がある。

2 m

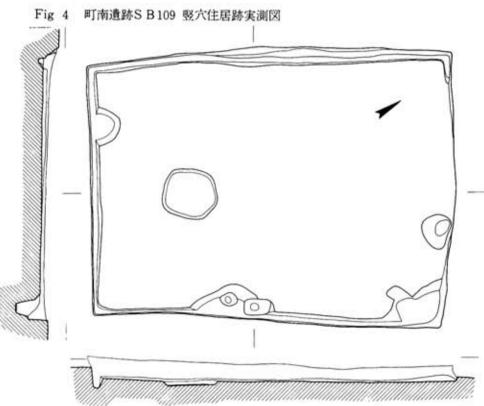


Fig 5 SB045 竪穴住居跡実測図

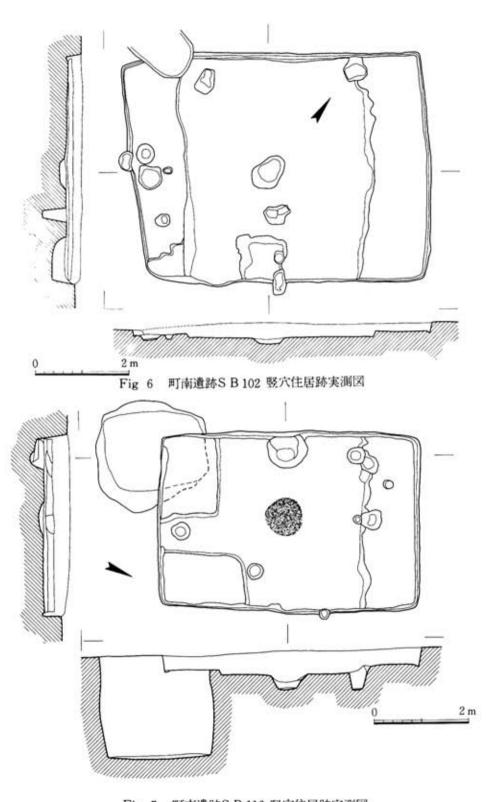
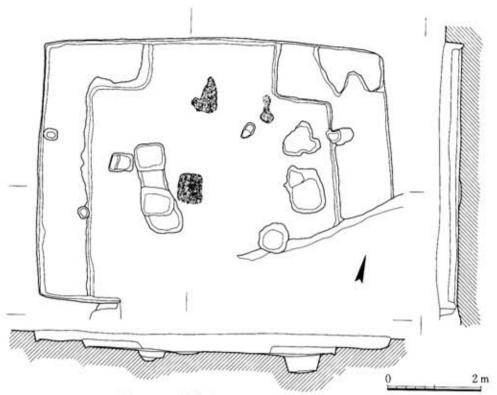
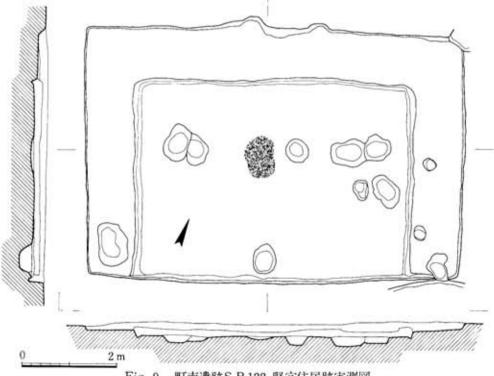


Fig 7 町南遺跡SB116 竪穴住居跡実測図



町南遺跡SB103竪穴住居跡実測図



町南遺跡S B 122 竪穴住居跡実測図

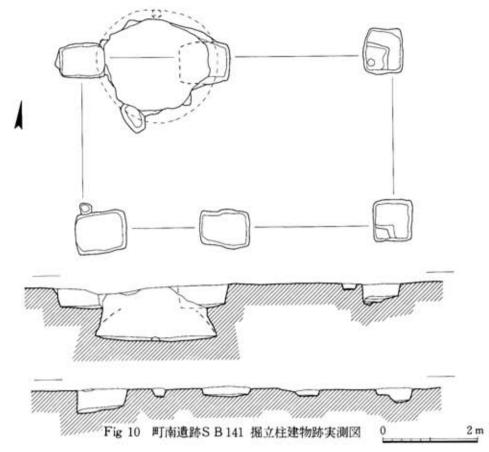
Tab. 1 町南遺跡竪穴住居跡一覧表

住居跡書号	形態	規 長き(長後)	模 (短径)	(m.)	面積㎡	棟方向	ベッド 状濃機	加	出土遺物等	時代	発掘時番号	懈	*
S B 005	長方形 (方形に近い)	6.98	5.37	0.60	37.5	N -E 78*	M	_	麦.鉢.高杯.器台 錐	<b>弥生時代後期</b>		S B 007 3 S B 006 3	り折
S B 006	長方形	7.40	5.03	0.46	37.2	N-E83*	有	中央	獎. 壹	养生時代後期		S B 005 J	
S B 007	長方形	6.20	4.30	0.46	26.7	N-E73*	有	中央	变.壶.鉢.手担土	<b>弥生時代後期</b>		S B 005 J	り古
S B 008	長方形	6.46	4.87	0.16	31.5	N-E 45*	*	_	雙、麦、鉢、高杯、手 型土石	弥生時代後期		S B 009 J S K 014 J	り古り新
S B 009	長方形	6.49	4.30	0.67	27.9	N-E 76*	*	中央	雙、豐、鉢、高杯、器 台、手控土器	养生時代後期		S B 008. S K 015.	S B 010
S B 010	円形	7.87	7.50	0.65	46.5		*	*	变.支牌.石包丁	养生時代中期		S B 006. S D 004.	009.
S B 021	円形	5.70	5.58	0.45	25.0	_	*	100	雙.壶.支脚	养生蚌代中期		S B 022 J	
S B 022	長方形	6.38	4.72	0.37	30.1	N -E 37*	*	中央	豐.支脚	养生時代後期		SB021. より新	
S B 023	円形	4.72	-22	0.53	17.5	_		*	变.砥石	秀生時代中期		SB024.	025
S B 024	長方形	4.95	3,53	0.50	17.5	N-E 64*	無	_	变.壶.鉢.高杯	养生時代後期		S B 023 J	り新
S B 025	長方形	_	-	0.26	_	N -W81*	*	-				SB023.	S K 02
S B 030	長方形	5.75	4.34	0.33	25.0	N-E 42*	*	*	雙.卷.鉢.高杯	<b>外生時代後期</b>		- 'm	
S B 031	長方形	4,30	3.17	0.21	13.6	N -W63*	×	_		<b>弥生時代後期</b>		S K 039 J	り新
S B 032	長方形	6.32	5.20LLE	0.29	32.9LL	N -W63.5*	*	_	壶,鉢	乔生時代後期		Description (	
S B 033	長方形	5.47	4.00	0.31	21.9	N -W55*	*			01000000000		S B 063 J	り新
S B 040	(長?)方形	-		0.23	-	N -W60*	*	_				S D 034 J	り古
S B 043	長方形	5.15~4.37	4.30	0.39	20.5	N-E 42*	有	中央	查.高杯	<b>弥生時代後期</b>			
S B 044	長方形	6.00~5.69	4.50~4.37	0.44	25.9	N -W76.5*	有	中央	雙,查,鉢,高杯.土 製計練車	<b>弥生時代後期</b>		S B 048 J	り新
S B 045	長方形	7.74	5.88	0.58	45.5	N-E 34*	無	*	变.壶.体	养生時代後期		No contract	
S B 046	長方形	6.86~6.15	5.42	0.40	35.3	N -W87*	有	中央	责.高杯	养生時代後期			
S B 048	長方形	6,60	4.97	0.38	32.8	N-E 57.5*	*	_	砥石			S B 044 J	り古
S B 051	正方形	4.52	4.08	0.43	18.4	N-E76*	M	16E	变.卷.体.器台.手 型土器	<b>养生時代後期</b>		BEARING.	
S B 053	長方形	5.16	2000	0.44		N -E 81*	葙	有	变.壶.手捏土器	养生時代後期			
S B 054	円形	4.88	_	0.21	18.7		*	*	柱状挟入片刃石斧	养生時代後期			
S B 056	(権)円形	7,30	6.06	0.51	35.0	_	*	*	变. 体	条生時代中期			
S B 057	(長)方形	12-21	722	0.27	==:	N-E51*	_	_	1000				
S B 059	円形	5.07	4.32	0.80	17.3		*	<b>*</b>	雙.高杯	养生時代中期		S X 055 J	り古
S B 060	(長)方形		1	0.44		N-W68.5*	有	_	责.鉢	乔生時代後期		COMME	
S B 101	方形	-		0.20	_	N-E38*	-	_	变.椀	<b>乔生時代後期</b>	方形住31号	4901	程を調
S B 102	長方形	6,30	4.80	0.30	30.2	N-E 50*	有	中央	变.鉢	<b>弥生時代後期</b>	方形住19号		
S B 103	長方形	7,50	5.60	0.45	42.0	N-E 80*	有	中央・北海の二ヶ市	变,鉢,高杯,鏡片	<b>弥生時代後期</b>	方形住20号		
S B 104	楕円形	6,30	5,50	0.25	27.3	2012 Z. (2016)	_	77.00	变, 壶, 石包丁石斧	乔生時代中期	円形住9号	S K 156.	S K 15
S B 105	長方形		4.20	0.30	-	N-E70*	有	_	变,鉢,高杯	秀生時代後期		1000	を調査
S B 106	-	_		-			-	_		0.20 (0.000.00	円形住10号	製造は機能し 製料が6ヶ船	211//2#
S B 107	長方形	5.00	-	0.25	-	N -W87*	有	_	變.砥石	<b>弥生時代後期</b>	1 E 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		
S B 108	長方形		72.5	0.25	_	N-E 54*	-2	_	雙.鉢.高杯.椀.壶	秀生時代後期	方形住16号	SB109よ 4分の1	り新、
S B 109	円形	4.80	4,70	0.20	17.7		_	_			円形住8号	120000000000000000000000000000000000000	
S B 110	円形	5.80	10-3	0.06		_	-	_	雙. 菱	<b>奈生時代中期</b>		1000	
S B 111	長方形	7.50	5.85	0.40	43.8	N -E 43*	有	中央	雙. 壹. 鉢	<b>弥生時代後期</b>		2000	
S B 112	長方形	5.60	3.35	0.20	18.7	N-W67.5*	. 33	中央	雙、壺、鉢、高杯	<b>养生時代後期</b>		-3 K 16	4.91
S B 113	長方形	5,50	3.90	0.15	21.4	N -E 56*	*	中央	型. 体	<b>芬生時代後期</b>			
S B 114	長方形	6.10	4.40	0.20	26.8	N-E 59.5*	200	中央	j#		方形住4号	C V 163	- n sc

S B 115	長方形	-		30	_	N -W85.5*	有	-	变	劳生時代後期	方形住17号	6分の1を調査
S B 116	長方形	550	385	55	20.9	N-W19*	有	中央			方形住6号	S K 173より新
S B 117	長方形	600	475	20	28.5	N-E51.5*	有	中央	雙查, 鉢.	<b>外生時代後期</b>	方形住 7号	S K 172より新
S B 118	円形	670 + o		20	_	-	2	-	变. 石包丁	<b>乔生時代中期</b>	円形住6号	4分の1を調査
S B 119	長方形	780	510	20	39.7	N -E 55*	有	中央	变. 高杯. 摘	<b>劳生時代後期</b>	方形住13号	SK 180.SK 181 SK 182 ± 9 M
S B 120	長方形	530	340	30	18.0	N-E 59.5*	ŧi	中央	要. 泰. 鲜. 石台. A	<b>外生時代後期</b>	方形住14号	SK176より新
S B 121	長方形	690 (600)	370	25	25.5	N-E 76*	Ħ	中央	变.壶.鉢.楠.支脚	<b>乔生時代後期</b>	方形住11号	
S B 122	長方形	880	540	25	43.2	N -E 72*	有	中央	雙.鉢.高台付稿 砥石	<b>养生時代時期</b>	方形住5号	
S B 123	円形	820	810	25	52.1	o value	2	_	獎. 查. 蓋	茶生時代中期	円形住2号	S K 192. S K 193 S K 195 £ 9 M
S B 124	楕円形	565	500	35	22.1	1	-	_	變. 砥石	秀生時代中期	四形住5号	S K 185, S K 186
S B 125	円形	460	-	23	16.6	1.00	-	_	變. 壶. 砥石	秀生時代中期	四形住4号	SK188より新 2分の1を調査
S B 126	円形	600	580	20	27.3	-	_	_	夔. 壶. 支脚	条生時代中期	円形住3号	S K 190. S K 191
S B 127	長方形	780	510	30	39.7	N -E 67*	有	中央	夏. 壶. 梅. 高杯. 支	养生時代後期	方形住12号	SK191 より新
S B 128	長方形	¥9620	380	20	23.5	N-E 24.5	有	中央	变.壶.高杯.椀.鉢	养生時代後期	方形住10号	S K 203 & 7 MF
S B 129	長方形	¥3570		30	_	N -W81.5*	_		變. 椀	<b>养生時代後期</b>	方形住 8 号	SK205より新 3分の1を調査
S B 130	長方形	-		40	-	N -W58*	-	_	寶、高杯、支驛、小 形丸底養	<b>弥生時代後期</b>	方形住.9号	SK201より新 5分の1を開査
S B 131	長方形			35	_	N -E 26*	有		雙.鉢.麦.裂台.梅 献石	<b>弥生時代後期</b>	方形住21号	住職等の上面から土着がり 量に出土する。
S B 132	長方形	-	-	40	_	-	=	-	20.00	-15m-000m-11	方形住22号	一部分のみ調査
S B 133	長方形	490	350	35	17.1	N -W25*	16	*	变. 鉢. 壹	<b>乔生時代後期</b>	方形住24号	NORMAL MAN
S B 134	長方形	_	430	35	-	N -E 63*		-	雙. 鉢. 壶	<b>弥生時代後期</b>	方形住25号	
S B 135	長方形		-	25	_	N -E 78*	_	_	變. 高杯	<b>弥生時代後期</b>	方形住26号	北側の一部分を顕
S B 136	長方形	620		50	-	N -E 76*	有	中央	砥石	5	方形住27号	2分の1を調査
S B 137	長方形	-	-	25	1	-		_	变. 壶	<b>芬生時代後期</b>	方形住28号	10分の1を顕査
S B 138	長方形	-	330	20	_	N -E 71*	有	_	0.000		方形住29号	3分の1を調査
S B 201	長方形	485		15	-	N -W 53*	有	*			Ⅱ次1号住	A STANSON OF THE STANSON OF THE
S B 202	長方形	#1560	minor 1	30	_	N -W60*	*	_	變,鉢,高杯,支脚	<b>奈生時代後期</b>	Ⅱ次2号住	4分の1を調査

#### 3. 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は19棟検出した。この他にも柱穴と見られる穴が多数在ることから、建物跡はさらに増えると考えられる。建物の規模は、1×1間の建物が6棟、2×1間の建物が7棟、2×2間の建物が1棟、3×1間の建物が3棟、5×5間の建物が1棟あり、1×1間、2×1間の建物の割合いが多い。建物の分布は、住居跡と変わらず調査区の全域に分布する。建物の方向は、桁行を東西方向に向ける建物が10棟、南北方向に向ける建物が8棟あり、東西方向の建物の割合が多いが、建物の方向に規則性は見られない。柱間は桁行間の平均が、1×1間の建物が3.3m、2×1間の建物が2m。梁行間は、1×1間の建物が2.8m、2×1間の建物が3m、3×1間の建物が3.4mあり、桁行の柱間は規模の小さい建物が長く、梁行の柱間は規模の大きい建物が長くなる。柱穴の大きさは、SB139、146建物のように直径0.3~0.4mの円形の他は、幅0.5~0.7mの方形をしており、特にSB141、149建物のように1mを過す柱穴がある。建物の時期は、住居跡との切合い関係や、柱穴からの出土遺物により、長方形の住居跡に伴う弥生時代後期と考えられる。



Tab. 2 町南遺跡 掘立柱建物跡一覧表

140 64a 32. CZ	24-44-11142	桁	行	梁	行	-44 /44	100 64 / JA	備	-
建物番号	建物規模	実長(m)	桂間(m)	実長(m)	桂間(m)	ガ位	面積(m²)	796	*
S B 061	2 × 1	3,0	1.5	3.0	3.0	N -W13*	9.0		
S B 062	2 × 2	7.1	3.95.3.2	4.2	2.1	N -W86*	15.0		
S B 063	2 × 1	4.5	2.2	3.9	3.9	N -W51*	17.5		
S B 064	2 × 1	3.9	1.9	2.4	2.4	N-W87*	9.3		
S B 065	2 × 1	3.9	1.9	3.2	3.2	N -W54*	12.5		
S B 139	3 × 1	6.0	2.0	4.2	4.2	W-E 11*	25.2		
S B 140	2 × 1	3.6	1.8	2.0	2.0	N - W20*	7.2	SB105より古	
S B 141	2 × 1	6.1	3.5 2.6	3.6	3.6	N -E 83*	21.9	SK160より新	
S B 142	1 × 1	3.1	3.1	3.0	3.0	N-E 86*	9.3		
S B 143	1 × 1	3.3	3.3	2.7	2.7	N -W21*	8.9	SB113より新	
S B 144	1 × 1	4.4	4.4	3.0	3.0	N-W12*	13.2		
S B 145	2 × 1	3.2	1.6	3.0	3.0	N-W4*	9.6		
S B 146	(5)×(5)	5.5	1.3~0.8	5.3	1.3~0.9	N -W51*	29.1		
S B 147	1 × 1	3.3	3.3	3.1	3.1	W-E 89*	10.2		
S B 148	1 × 1	2.8	2.8	2.2	2.2	N-E 35*	6.1		
S B 149	3 × 1	4.8	1.7. 1.6	3.0	3.0	N -E 63*	14.4	SK212より新	
S B 150	1 × 1	3.7	3.7	2.8	2.8	N-E 50*	10.3	SB133より新	
S B 233	3 × 1	6.9	2.3	3.0	3.0	N-E 37*	20.7	桁行が南へ延びるこ	とも考えられる
S B 234	-	-	2.2	2000		N -W60*	0.2389	WANTED STORY	

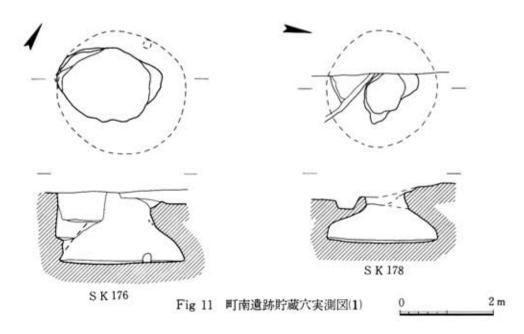
#### 4. 貯蔵穴跡

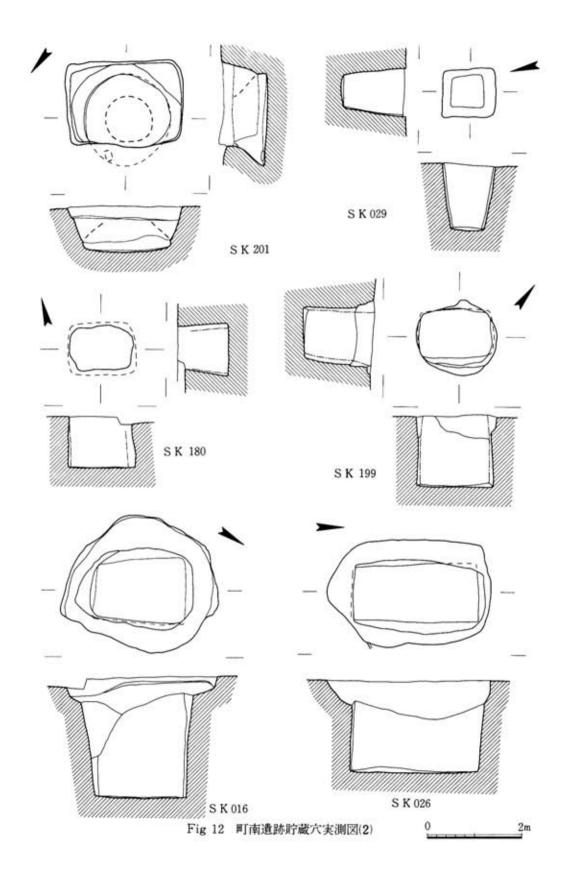
弥生時代の所産と考えられる貯蔵穴(穴倉)は I 次調査で72基、Ⅲ次調査で15基の計87基を 検出した。ほとんどが前期末から中期前半の時期に構築されたものであり、主に後期以降の竪 穴住居跡などにより破壊されているものが多いが、遺構が深いためおおかた原形を復元しうる。

形態的には平面形態が円形基調のものと長方形基調のものに大別できる。前者はいわゆる断面袋状のものがほとんどで、S K 194 貯蔵穴のみが梯形となっている。S K 167・201貯蔵穴のように平面長方形の竪穴を掘り、その底部から下方に平面円形の袋状竪穴を掘り込むものもあり、上部構造を推測させる。規模は底面径 1.2~2.75m の範囲内にあり、径 2 m 前後、底面積 3 m のものが標準である。調査時の深さは0.70~1.60m であった。後者は平面長方形または隅丸長方形のものがほとんどだが、S K 029 貯蔵穴のように平面正方形で小規模なものもある。壁はほぼ垂直で、わずかに梯形になるものや袋状に下方に広がるもの(S K 180 貯蔵穴)もある。規模は底面の長辺で0.69~3.65m の範囲内にあるが、1.70m 前後 0.3m の内に集中する。底面積で最小のものはS K 029 貯蔵穴、最大のものはS K 161 貯蔵穴で、それぞれ 0.5m 、5.4 m で、一般的には 1.4m ~ 2.8m に集中する傾向が強い。調査時の深さは0.48~2.58m であった。

貯蔵穴内からの出土遺物としては、土器では甕が多く、次いで壺、その他のものとして磨製 石斧、石包丁などの石器、籾や竪果類の炭化物、貝殻などがある。

これらの遺物の時期はほとんどが弥生時代前期末から中期前半にかけてのものであるが、貯蔵穴の形態の時期的な変化をみると、平面長方形のものは、中期中頃のSK172 貯蔵穴などを





除けば、ほとんどが前期末の所産で、平面円形のものは前期までさかのぼるものも若干存在するがほとんどが中期前半の所産である。

前記の竪穴住居跡のうち平面円形のものは弥生時代中期前半のものがほとんどであり、これらに付属して設けられていた貯蔵穴は平面円形基調のものであるということになる。平面長方形の貯蔵穴に対応する竪穴住居跡は検出されておらず、他の区域に前期末の居住区を求めなければならず、今後の検討課題として残る。また調査区内での貯蔵穴の分布をみると、平面長方形のものは I 次調査区、II 次調査区北半部に普遍的に分布するが、平面円形のものは II 次調査区まで広がらない。II 次調査区では南半部(S D 042 · 066溝より南)は調査面積も小さく、遺構存在の密度もやや疎になるが、平面円形住居跡も3基検出されているにもかかわらず、貯蔵穴と呼べるにふさわしい遺構は存在していない。またS D 066 溝の北側でも、溝と一定の間隔を保って貯蔵穴が存在している。このことは貯蔵穴の構築にあたっては、S D 066 溝の存在が、その設定位置に関して大きな規制となっていたことを示すものであろう。

Tab. 3 町南遺跡貯蔵穴一覧表

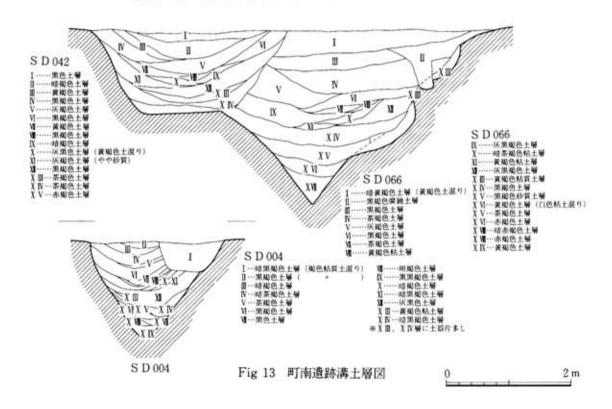
貯蔵穴番号	形飾	規 模 (cm			出土遺物等	升 华	発掘時番号	饠	*
灯概八番号	/IS 95	.h. ihi	底面	漂き	出工思初等	49 10	光维時番号	DNN.	5
S K 011	長方形	287×200	237×142	191	褒	弥生時代前期末			
S K 012	長方形	185×205	163× 89	77	1	Company of the state of			
S K 013	長方形	295 × 223	245×106	200					
S K 014	長方形	286×134	214×120	90				S B 008 J	り古
S K 015	長方形	×217	196×130	133				S B 009 4	り古
S K 016	長高形	324×288	203×134	258	变. 炭化米	弥生時代前期末		SB0064	り古
S K 017	長方形	228×246	170×117	195		0.42244600000000		西壁に横	たあり
S K 018	長方形	230×202	175×115	131	变	弥生時代前期末			
S K 019	長方形	167×119	136×123	160					
S K 020	正方形に近い長方形	343+a×273	200×148	204					
S K 026	長方形	350×218	270×123	196				S B 025 J	り古
S K 027	長方形	227×180	137×101	178	变	弥生時代前期末		S B 022 J	り古
S K 028	長方形	258 × 220	219×147	150	麥	弥生時代前期末		C. In Section 19	
S K 029	(正)方形	112×100	69× 68	143	变	弥生時代前期末			
S K 039	正方形に近い長方形	204×167	186×137	155	变. 查	弥生時代前期末		S B 031 &	り古
S K 151	長方形	180×160	105× 94	160	变	弥生時代前期末	方形穴69		
S K 152	長方形	×108	-× 47	105	100	CONTRACTOR ACCORDANCE	方形穴70		
S K 153	長方形	190× 86	170× 78	95			方形穴68		
S K 154	長方形	170× 96	166× 90	70			方形穴66		
S K 155	長方形(隅丸)	180×140	170×130	95			方形穴65		
S K 156	長方形	160×110	145×100	85	褒	弥生時代前期末	方形穴64		
S K 157	長方形	165×120	170×118	100	变. 壶	弥生時代前期末	方形穴63		
S K 158	長方形(袋状)	180×150	158×134	110	雙.鉢.石斧	弥生時代前期末	方形穴60		
S K 159	長方形	210×120	190×110	150	度. 费. 支脚. 石斧 灰化米	弥生時代中期前葉	方形穴55		
S K 160	円 形	220×190	256×238	115	变.查.石包丁.石斧	弥生時代中期前業	円形穴9	上面が崩れ	表
S K 161	長方形	320×260	270×200	110	甕. 瓷. 炭化米	弥生時代前期末	方形穴2		
S K 162	長方形(袋状)	240×200	195×140	170	炭化米		方形穴3	上面が崩れ	表
S K 163	長方形	280×124	264×110	110	雙, 查, 炭化米	弥生時代前期末	方形穴5	D433597601616	
S K 164	長方形(袋状)	180×120	160× 98	145	智城)·灰化米	弥生時代前期末	方形穴38		
S K 165	長方形	160×104	155×112	100			方形穴37		
S K 166	長方形	205×130	200×124	65	雙	弥生時代前期末	方形穴36		
S K 167	円形(上面は長方形)	206×120	240×238	125	變	弥生時代中期前葉	円形穴10		

S K 168	長方形(袋状)	232000000	365×140	100000	变. 炭化米	弥生時代中期前葉	200000000000000000000000000000000000000	
S K 169	長方形	×100	—× 80	約150	獎. 查	弥生時代中期中頃	方形穴23	SK168より新
S K 170	円形	190×170	190×185	110			円形穴1	上面が崩壊
S K 171	長方形	215×138	200×124	80	W-W-W-6-11-2-5	NAMES OF THE OWN OF THE OWN OF THE OWN OF THE OWN	方形穴4	
S K 172	長方形	140× 65	106× 58	110	雙、壺、節台、貝ガラ (カキ、巻貝)	<b>弥生時代中期中頃</b>	方形穴 6	
S K 173	長方形(袋状)	230×215	212×166	225	100000000000000000000000000000000000000		方形穴20	
S K 174	長方形(袋状)	250×190	220×130	120			方形穴7	上面が崩壊
S K 175	楕円形	100× 78	120×100	70			方形穴42	200000000000000000000000000000000000000
S K 176	円形	170×150	274×255	150	變. 支脚	弥生時代中期前蒙	円形穴8	上面が崩壊
S K 177	長方形(袋状)	230×150	180× 90	170	变	弥生時代前期末	方形穴34	上面が崩壊
S K 178	円形	90× 80	230×240	125	雙。砥石	弥生時代中期前葉	円形穴7	INVESTIGATIVA COM
S K 179	長方形	165×102	145×105	90	變	弥生時代前期末	方形穴32	
S K 180	長方形(袋状)	133× 90	144×110	110	变		方形穴35	
S K 181	長方形	178×134	158×114	65			方形穴59	
S K 182	長方形(隅丸)	144×108	125× 90	95	变. 壶	弥生時代前期末	方形穴33	
S K 183	円形		168×160	10000	變. 壶	弥生時代中期前葉	円形穴6個	BK184と切り合う
S K 184	円形	110×100	170×160	140				
S K 185	長方形(袋状)	V. C. (1977)	145×105	Pr. 10000000	<b>新井岳車</b>		方形六40	
S K 186	長方形		135×100	P. 1000000	变. 壶. 炭化果実	弥生時代前期末	方形穴39	
S K 187	長方形(袋状)		Popular III Control		变. 查	弥生時代前期末	方形穴28	
S K 188	長方形	The state of the s	154× 98	The second second	A. 36	Pristange Statements	方形穴27	
S K 189	長方形	21/2/2015	142×130	2 - 2 - 2 - 2			方形穴29	
S K 190	円形	0.5500000000000000000000000000000000000	215×202	775.0			円形穴5	SB126より古
S K 191	長方形	State 12 (1995)	144×102	170	变, 资、石斧	弥生時代前期末	方形穴26	3 11204 7 11
S K 192	長方形(隅丸)	THE STATE OF THE STATE OF	148× 76	90	X . 32 . 11/F	N.T. well California.	方形穴8	
S K 192	長方形	220000000000000000000000000000000000000	154× 95	E	杏	弥生時代前期末	方形穴24	
S K 194	円形	295×280	F 650 F 1 - 2 S 5	#180	100. 表. 雅. 石炉 石包丁	弥生時代中期前葉	0.007/0.0000000000000000000000000000000	SK193より新
S K 195		\$200 Section 15	140×120	170	4.5 L	<b>沙土町八十州州来</b>	円形穴5	3 K 193 & 7 M
S K 196	長方形(袋状)	S. S	104× 80	100000	<b>搜</b>	26- At- 0.5- At- 0.0- 0.0- 0.0-	方形穴15	
S K 190		15 TO	120× 85	10.00	*	弥生時代前期末	方形穴21	
	C 53 540 T 2 42 T 532 T 11 C	200		1000		26- et- n.e. (1)- 66-100	200000000000000000000000000000000000000	
S K 198	長方形	200	85× 65	90	变 W/Um-t-	弥生時代前期	方形穴9	
S K 199	長方形(袋状)		160×105	10.700	炭化果実 ・ ボール/ LIPSを	Me stends (to Afren 4)	方形穴14	
S K 200	長方形	100 to 10	200× 80	1000000	变 壶. 炭化果实	弥生時代前期末	方形穴12	
	円形(上面は長方形)	0.500 1250	45 JOSEPH 115	100		No. 11. with 115 Advantage	方形穴19	
S K 202	長方形	10/50% (Ep. 100a)	150×110	175	变. 查	弥生時代前期末	方形穴16	
S K 203	長方形	100000 CT - DE TO	196×130	50	** *****		方形穴57	
S K 204	円形	1.5000000	170×	120	石包丁		方形穴25	
S K 205	長方形	約150×-	1 - 7	80	20 20	120120112012011	方形穴56	4分の1程を調査
S K 206	長方形	Z = 1250 (10 to 10 to	185×110	185	变. 壺	弥生時代前期末	方形穴18	
S K 207	長方形	224300.73	162× 52	0.0000			方形穴101	
S K 208	長方形	100000000000000000000000000000000000000	94× 58	G 0000			方形穴22	
S K 209		24.4	182×105	175,410	22-120 CH252V		方形穴19	
S K 210	長方形		145× 92	100000	變.壺.支脚.蓋	弥生時代中期前葉	7.5050000000000000000000000000000000000	
S K 211	長方形	0.340.00.00.00	170×105	1000000	变. 查	弥生時代前期末	方形穴71	
S K 212	長方形	Company Company Company	200×108		變. 壶	<b>秀生時代前期末~中期前</b>	方形穴72	
S K 213	長方形	165× 85	100× 60	105	-10	PERSONAL PROPERTY AND ADMINISTRATION OF THE PERSONAL PROPERTY AND	方形穴75	
S K 214	長方形	-x-	140×125	110	壺	<b>秀生時代前期末~中期前</b>	方形穴93	3分の2を調査
S K 215	長方形	7.57 (2.00)	170×155	1.1. 1.55 1.70	變. 壹. 石鎌	弥生時代中期前葉		正方形に近い
S K 216	長方形	200×172	184×160	65	獎. 軽石	弥生時代中期前葉	方形穴94	
S K 217	円形	98× 88	148×145		變. 石包丁	务生時代前期末~中期前	円形穴14	
S K 218	長方形(袋状)	190×150	160×170	100	壺	弥生時代前期末	方形穴96	
S K 219	長方形	230×130	218×130	P. 145-145-1	褒、壶、石斧	弥生時代前期末	方形穴97	
S K 220	長方形	×	-×120	75	COLOR STATE OF THE	perconnector to the C	方形穴98	一部分のみ調査
	Control of the		-×270	1 90.000			方形穴100	3分の1を調査
S K 221	長方形	V 240	- 210	44.0			22100 4400	O 22 F P M-178

#### 5. 溝

溝は I 次調査で4条、Ⅱ次調査で2条、Ⅲ次調査で10条検出した。これらのうち各調査区で連続するものが3条あるので、計13条となる。これらのうち幅が狭く浅いものの中には最近の所産もあり、性格も不明な点が多い。ここではSD223、SD004、SD042、SD066溝について簡単に述べる。

SD223 溝は I 次調査区南東部にあり、東南東方向に調査区外へ続く。約13m 調査を実施した。幅は2.25~2.35m で断面はU字形をなす。深さ約 0.8m。溝内から弥生時代後期後半の土器を多数出土した。SD004 溝は I 次調査区南東部から II 次調査区北東部にかけて検出されたが、東方区外へ続く。西側溝は全長約23m で外側にややふくらみをもち、両端から東方へ屈曲し、平面コの字形または方形となる可能性がある。幅は1.93~2.80m で、断面は底にやや丸味をもつV字形をなす。深さ1.42~1.81m。溝内から弥生時代後期の土器多量、鉄製の刀子、鏃、手鎌などを出土した。SD042 溝とSD066 溝は II 次調査区から III 次調査区中央部をやや南にふくらみ、丘陵を横に切断するかのように走る。86m 間を調査したが、SD042 溝は弥生時代後期、SD066 溝は弥生時代前期末に掘削されたものだが、前者は後者の埋没後であれ、その存在を知っていたらしく、後者の北側に沿って掘削されている。前者は幅3.45~4.80m、深さ1.15~1.61mの断面U字形、後者は推定幅約 4.1m、深さ2.74~3.00mの断面V字形をなす。



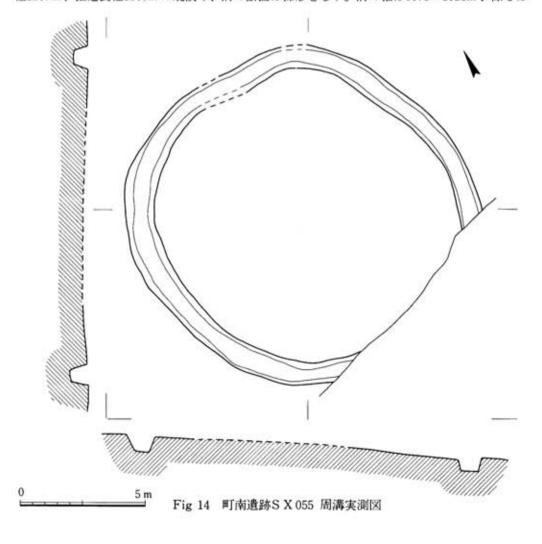
SD042 溝からは弥生時代後期の土器を多量、鉄製の鎌2、刀状の破片等を出土した。土器には完形のものが多い。SD066 溝は下層から前期末、上層から中期前半の土器を出土した。

#### 6. 周 溝

■次調査区南部で、平面形が円形ないし楕円形にめぐる周溝を2基検出した。先のSD004 溝も方形にめぐる周溝かも知れない。

S X 049 周溝は平面楕円形の東部を欠いた弧形をなす。長径12.4m、短径 9.3m の規模で、溝の断面は梯形をなす。溝の幅は0.54~0.98m、深さは0.30~0.49m である。溝に囲まれた部分には遺構は存在しない。溝の埋土中から弥生時代後期の甕・壺・鉢・器台の破片数点が出土したのみである。

S X 055 周溝は平面円形に近い楕円形をなすと考えられるが、南部は調査できなかった。短径12.7m、推定長径13.9mの規模で、溝の断面は梯形をなす。溝の幅は0.75~1.28m、深さは

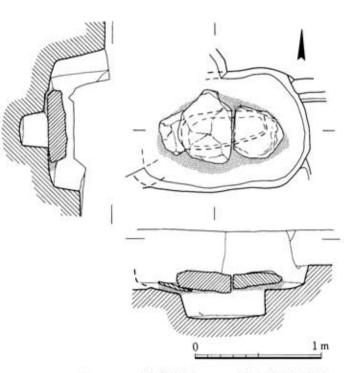


0.52~0.76m である。SB059 竪穴住居跡を切って構築されており、また周溝に囲まれた内部にはSB056 竪穴住居跡があるのみで他の特別な遺構は検出できていない。溝の内部からは弥生時代後期の土器が多量に出土した。特に西部と東部からの出土量は多く、南西部、北部には数個単位の出土をみた。完形品も多く含まれ、器種も当時用いられたほとんどのものが出土している。

これら2基の周溝は規模・形態が類似しているが、土器の出土状況は全く様相を異にする。 S X 055 周溝は祭祀的な性格の強い遺構と考えられる。

#### 7. 石蓋土壙墓

調査区の北端からSP227 石蓋土壤墓1基を検出した。 N79°Eに主軸をとり、長さ約 1.4m、幅0.93m、深さ0.43 mの隅丸長方形の墓壤に、長 さ0.67m、西側幅0.29m、東 側幅0.22m、深さ0.23mの西 側が広い楕円形の棺を掘り込 んでいる。蓋石は緑泥片岩の 板石3枚を用いており、蓋石 の内面に赤色顔料を厚く塗布 している。副葬品は出土しな かった。



8. 古 墳

Fig 15 町南遺跡S P 227 石蓋土壙墓実測図

古墳はⅢ次調査で1基調査した。ST047 古墳である。径約16mの円墳で、墳丘は高さ約1.5 m 遺存しており、石室の天井石らしいものが露出していた。周溝は西部では削平され遺存しないが、検出した部分では最大幅 2.2m、深さ0.22mであった。石室は破壊がひどいが、おそらく単室構造の横穴式石室で、西へ開口している。玄室の上部の天井石は一度動かされ、再び置かれたものらしい。玄室は長さ 2.1m、幅 1.1mの小規模なもので、床には敷石を施している。南部は区外となり、周溝南部は未調査である。

遺物としては、封土中から坏(身)、高坏、塵などの須恵器を数点、羨道部から丹塗磨研の 土師器の高坏、玄室内の敷石の間から耳環3個、ガラス小玉数個が出土した。6世紀後半の所 産である。

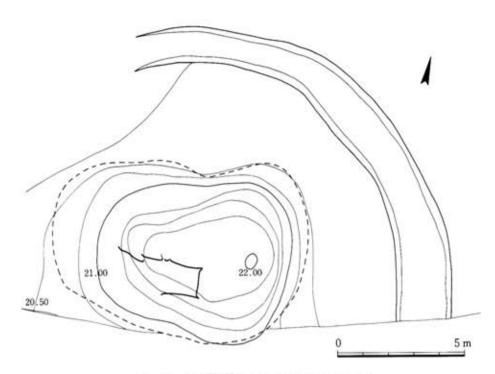


Fig 16 町南遺跡ST047 古墳墳丘測量図

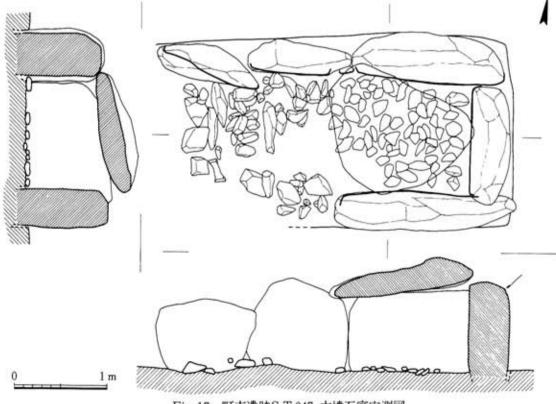


Fig 17 町南遺跡S T 047 古墳石室実測図

#### Ⅲ. 遺 物

町南遺跡出土遺物には、土器・土製品、石器・石製品、金属器がある。

#### 1. 土器·土製品

土器・土製品には弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、投弾、土鈴があり、貯蔵穴、住居跡 周溝、土壌から大量に出土した。個々の遺物について述べるには紙面の都合があり、各遺構毎 に代表する出土遺物を掲げる。

貯蔵穴出土土器 (Fig 18) には、弥生時代前期後半から中期初めの壺、甕、支脚がある。壺は頸部が短く内傾し、肩部に弧文、横線文を施す小形壺や、口径18cm、器高40cmの大形壺がある。甕は口縁部が如意形で、端部に刻目を施すもの(4~6)、口縁部と口縁下に刻目凸帯を施す亀ノ甲タイプ (7~13)、口縁部に断面三角凸帯を張りつけるものの3形態がある。

住居跡出土土器 (Fig 19、20) には、弥生時代中期初頭と弥生時代後期中頃~後葉の土器がある。前者の土器 (Fig 19、1~8) には甕、壺、支脚がある。甕の口縁部は未発達な逆L字状をしている。後者の土器 (Fig 20) には甕、広口壺、直口壺、袋状口縁壺、長頸壺、鉢、高杯、器台、支脚がある。甕の口縁部はくの字に外反し、体部は張りがなく、底部は5のように丸底に近いものがあるが、大半はレンズ状である。

溝跡出土土器には、SD066 溝から弥生時代前期後半の土器が、SD004、042、223溝から弥生時代後期中頃~後葉の土器がある。SD066 溝出土土器(Fig 19、9~12)には甕と壺がある。9~11は最下層から出土しており溝の時期を考える上での好資料である。甕は口縁部が内傾し、口縁端部と口縁下に刻目凸帯を張り付けている。SD042 溝出土土器(Fig 19)には、甕、広口壺、無頸壺、長頸壺、袋状口縁壺、注口土器、鉢、高杯、器台、支脚などほとんどの器種がそろっている。甕の口縁部はくの字に外反し、体部の張りは少く、底部はレンズ状となる。SD004 溝と、SD223 溝出土土器(Fig 21)は、器種、器形とも大差はなく、ほぼ同時期と考えられる。器種には甕、広口壺、直口壺、鉢、台付鉢、高杯、器台、支脚がある。甕の底部は丸底に近くなり、体部の外面にタタキが残るものがある。

周溝からはS X 055 周溝からまとまった土器が出土した。(Fig 22) 器種には甕、無頸壺、 短頸壺、直口壺、袋状口縁壺、鉢、高杯、器台があり、器種、器形の特長などS D 042 溝出土 土器と大差ない。甕は体部がわずかに張るが、底部はレンズ状になる。

ST047 古墳出土土器 (Fig 19) には須恵器の杯、聴、高杯、土師器の高杯がある。

この他の土器、土製品として、住居跡の埋土から楕円の押型文土器が1点、SB125 住居跡から投弾が1点、SD006 溝から紡錘車が1点出土した他、SK235 土壌から江戸時代後期の椀、皿、壺などの陶器、磁器とともに土鈴 (寒水ガラガラ、PL16) が多量出土した。

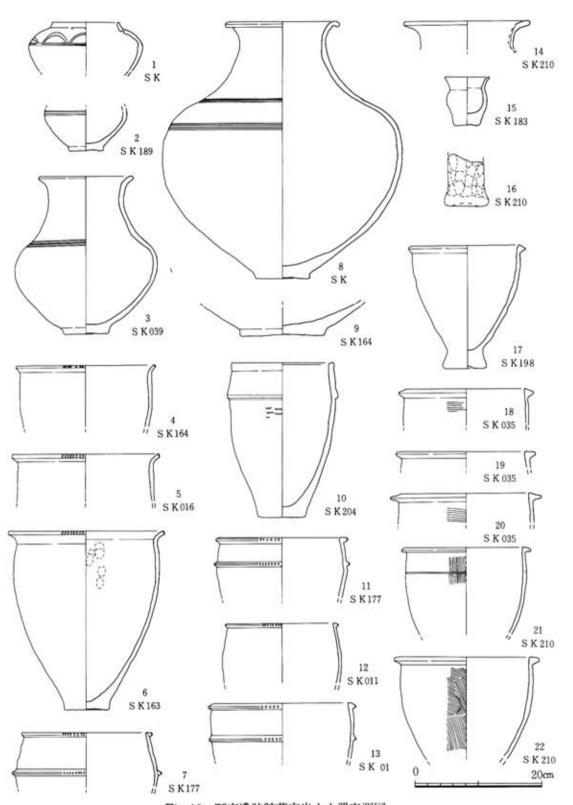


Fig 18 町南遺跡貯蔵穴出土土器実測図

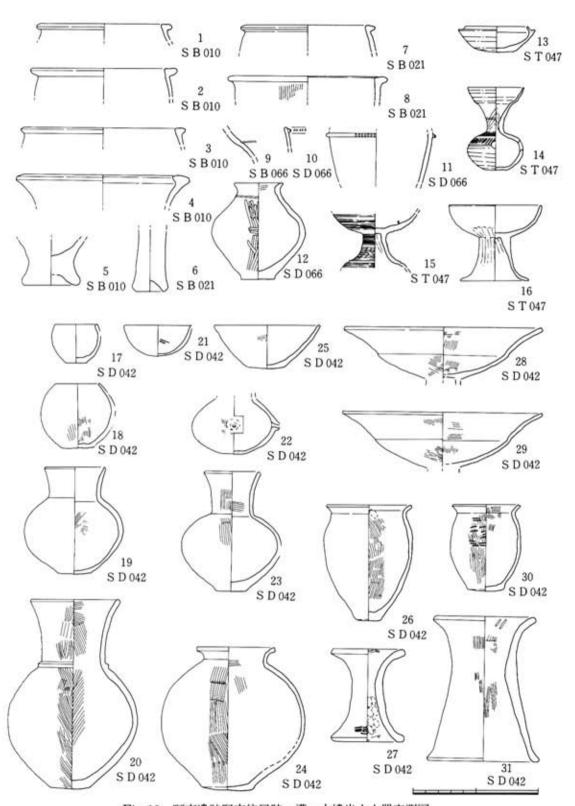


Fig 19 町南遺跡竪穴住居跡·溝·古墳出土土器実測図

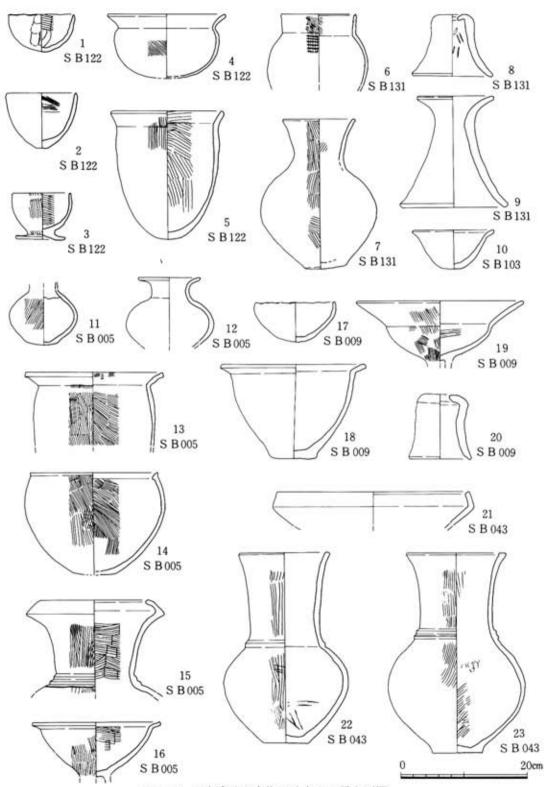


Fig 20 町南遺跡竪穴住居跡出土土器実測図

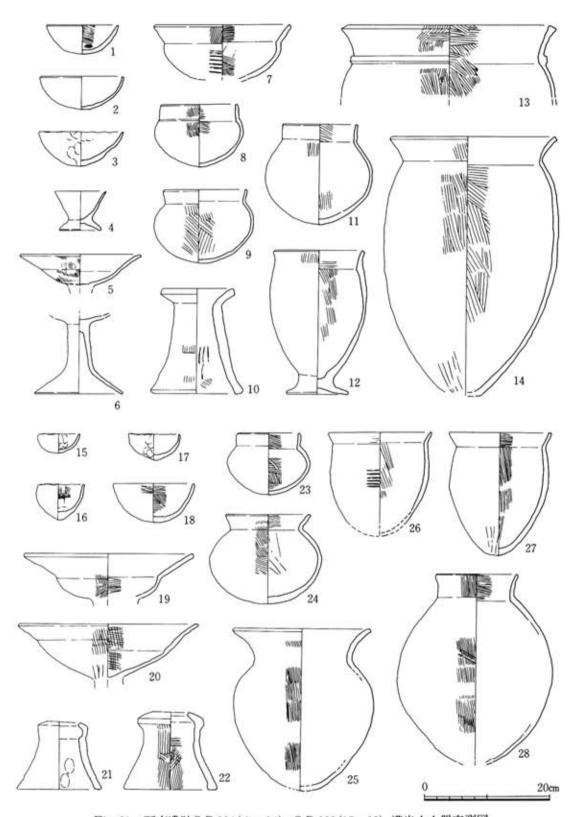


Fig 21 町南遺跡S D 004 (1~14)・S D 223 (15~28) 溝出土土器実測図

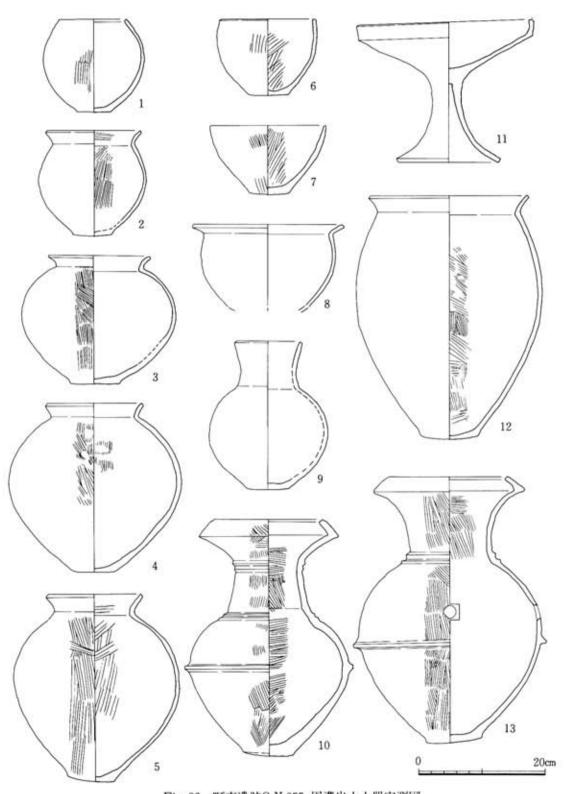


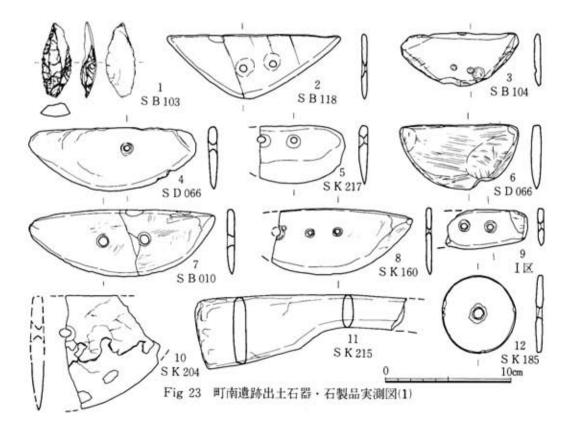
Fig 22 町南遺跡S X 055 周溝出土土器実測図

#### 2. 石器·石製品

石器・石製品としては石包丁・石鎌・石斧・石鏃・石剣やナイフ形石器・紡錘車・砥石などが出土した。黒曜石製の石鏃・ナイフ形石器以外はすべて磨製石器である。これらのうち砥石の一部などが弥生時代後期以降の竪穴住居跡から出土した以外はほとんど前期末から中期前半にかけての貯蔵穴または中期前半の竪穴住居跡に伴なうものである。

石包丁は刃部が外彎するものがほとんどで、一部三角形のものもある。孔の位置、数なども 多種にわたり、小形のもの大形のものも存在するなど、ある程度の年代差を示すものもある。 同じ収穫具と考えられる石鎌の出土も注目される。石鎌は現在長16.8cm、基部は幅 5.4cm・厚 さ 1.0cmで、わずかに内彎する刃部は丸味をもち純い。石斧はほとんどが破損しているが、小 形柱状片刃石斧・柱状挟入片刃石斧・扁平片刃石斧・太型蛤刃石斧などの種類がある。砥石は 扁平なものと柱状のものに大別されるが、砥面は使用され彎曲する。粗砥・中砥・仕上げ砥が ある。

石鏃はほとんどが小形の凹基式三角鏃である。ナイフ形石器は黒曜石の横長剝片を用いたもので、現在長 5.9cm、厚さ 1.2cm。刃部先端には二次加工が施されている。紡綞車は径 6.2cm、厚さ 0.6cm。他に黒曜石製の尖頭器がある。



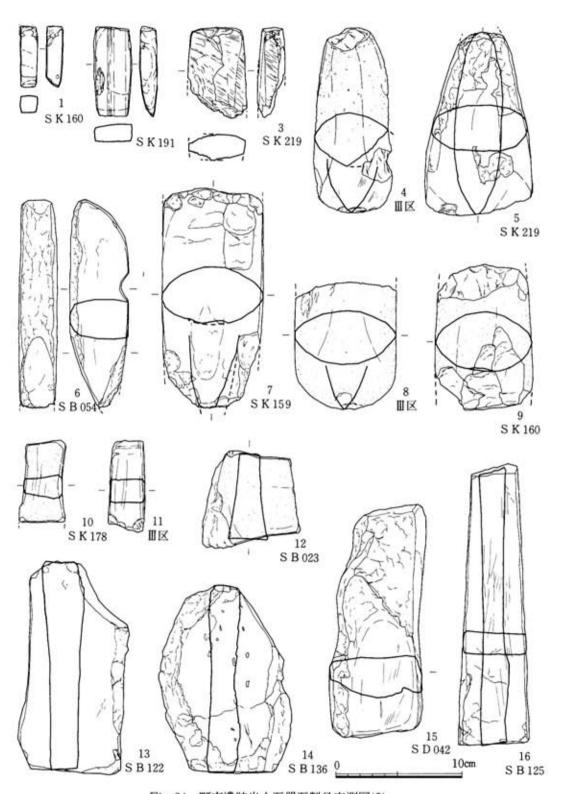
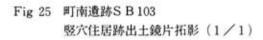


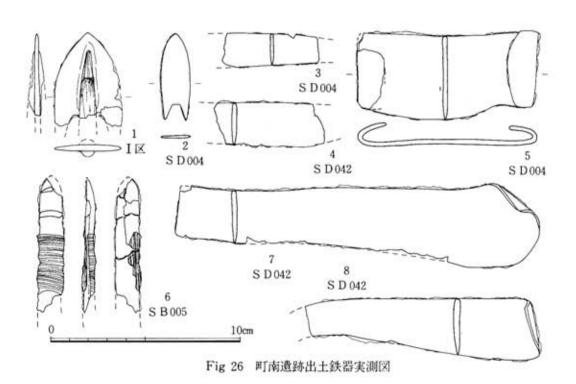
Fig 24 町南遺跡出土石器石製品実測図(2)

#### 3. 金属器



金属器としては銅鏡片1、鉄製の鏃2、鉇1、手鎌1、 鎌2、刀子の破片と思われるもの2の計9点が出土した。 これらのうち鏡片、大形の鏃、鉇を除けば他はSD004 溝とSD042 溝に伴なうものである。鏡片はSB103 竪 穴住居跡のベッド状遺構上で検出されたもので、全体の 約4分の1の破片で、鈕も欠く。外区は平素縁で、斜行 櫛目文帯と2圏の内側に猷文らしき文様を配する。位至 三公鏡の破片と考えられる。外縁部と割り口の鈕に近い 部分には穿孔があることから、垂飾として用いられたも のと考えられる。復元径8.2cm、縁の厚さ0.28cm。銅質 は良く、黒色に近い緑色を呈する。





#### N. おわりに

1975年、1977年、1980年の3回にわたり約9,000㎡の発掘調査を行い、竪穴住居跡68棟、掘立柱建物跡19棟、貯蔵穴87基、溝13条、周溝2基、石蓋土壤墓1基、古墳1基などを検出し、町南遺跡全体の概要が明らかとなった。町南遺跡は、弥生時代の前期後葉に環溝を持つ集落として始まり、弥生時代中期前葉から中頃、弥生時代後期中頃から後葉及び古墳時代後期の四時期に集落、古墳が形成されている。以下各時代毎にまとめてみる。

弥生時代前期後葉の遺構は、貯蔵穴34基以上、溝1条がある。調査区の南側に幅 4.1m、深 さ2.7~3.0mの断面V字状の溝 (SD066 溝)が、東端から北西へと弧状に廻っており、貯蔵 穴はこの溝の北側(内側)にのみ適当な間隔をおいて所在する。貯蔵穴の形態は長方形か隅丸 長方形で、壁は垂直かわずかに袋状となり、長さ3.24m、幅2.88m、深さ2.58mの大きなものがある。住居跡は検出しておらず、この時期の居住地がどこであるかは今後の課題である。

弥生時代中期前葉から中頃の遺構は、竪穴住居跡15棟、貯蔵穴14基以上の他、SD 066溝も溝としての役割をまだ保っていたと見られる。遺構の配置は、竪穴住居跡がⅠ次、Ⅲ次調査区全域に見られ、SD 066 溝以南からも 3 棟を検出した。貯蔵穴はSD 066 溝以北のみに分布し、しかもⅠ次調査区の南側に集中する。住居跡の形態は円形か楕円形をしており、中央に土壌があり、土壌の周囲に 4 本の主柱を方形に配すものと、土壌の周囲に 8 ~10本の主柱を配し、さらに主柱の外側に支柱を廻すものがある。貯蔵穴は円形と長方形があり、円形の貯蔵穴は上面が狭く下面が広い袋状になるが、上面が長方形で中程から円形の袋状になるもの(SK 167、201貯蔵穴)もある。

弥生時代後期中頃から後葉にかけての遺構は、堅穴住居跡53棟、掘立柱建物跡19棟、溝 3 条、周溝 2 基、石蓋土壤墓 1 基を検出した。遺構の配置は、調査区の南側にS D 066 溝と重複しながら北西へと幅3.4m~4.8m、深さ1.1~1.6mの断面U字形をした溝(S D 042 溝)が弧状にめぐっている。竪穴住居跡や掘立柱建物跡は、調査区の全域から検出されるがS D 042 溝の内側に多く外側は極端に少い。周溝は、S D 042 溝の南側に所在し、石蓋土壤墓は住居域である調査区の北側、S B 102 住居跡と重複する。住居跡の形態は長方形で、中央に灯を設け長辺の南壁に土壌を有し、壁の内側にI 字、L 字、コ字状のベッド状遺構を設けるものが多い。 I 次調査区の住居跡は重複することは少く、築造するに際して旧住居跡との重複を避けるような意図が伺われるが、II 次調査区では住居跡の重複が多くなりそのような意図は見られない。住居跡の方向は、桁行を東西に向ける建物が一般的であるが、一次調査区では住居跡の重複を避ける関係で、桁行を南北に向ける建物も見られる。周溝は、S X 049 周溝が東部を欠いた楕円形、S X 055 周溝が円形に近い楕円形である。周溝の内側からは特別な遺構はなく性格は明らかでないが、S X 055 周溝溝からの大量の土器出土から祭祀的な意味の深い遺構と見られる。

弥生時代後期中頃から後葉の出土遺物は、住居跡・溝・周溝から多量の弥生土器が、SX 0 42溝から鎌・鋤先・鎌などの鉄製品が、SB103 住居跡から位至三公鏡片が出土した。この中 でSD042 溝及びSX055 周溝出土土器は弥生時代後期中頃の、SD004、223 溝出土土器は 弥生時代後期後葉の一括土器として注目される。

古墳時代後期の遺構として、調査区の南東端から横穴式石室を内部主体とする古墳1基を検 出した。後期古墳は脊振山系の山麓部に多く分布しており、この古墳は低位段丘上に築造され た数少い古墳の1つである。

以上町南遺跡を時代毎に概観したが、遺跡は弥生時代に普遍的に見られる環溝集落であり、 環溝は北から南へ延びる段丘の東側を、調査区南側の東端から北西へと延びている。今回の調 査では86m を確認したが、このままの状態で進むと仮定すれば直径 200m 程の孤状となり、環 溝の北端は旧長崎街道の北側まで延びることとなる。今回調査を行った面積は約 9,000㎡であ るが、環溝内側の調査面積は約 5,000㎡であり、これは環溝内側面積の約20%にすぎない。

町南遺跡の周囲では、近年弥生時代集落の調査が相次いで行なわれている。弥生時代中期から古墳時代前期の遺跡である姫方原遺跡、弥生時代前期、中期の宝満谷遺跡、弥生時代中期の船石遺跡、弥生時代中期~後期の一本谷遺跡、弥生時代中期の下石動遺跡、弥生時代前期、中期の西石動遺跡などである。これらの遺跡は、時代や立地など町南遺跡と共通する所が多いがいづれも環溝となる溝は検出されていない。県内での環溝(条溝)集落は、弥生時代後期の干塔山遺跡、城の上遺跡、弥生時代中期の牟田辺遺跡がある。弥生時代の集落は、環溝を備えることが多いが、環溝がないものも多く、環溝を備えるものと、備えないものの関係、さらには町南遺跡の環溝の広がり、弥生時代前期の住居跡、弥生時代中期、後期の墓地の位置など今後の検討課題である。

#

- (1) 「姫方原遺跡」佐賀県文化財調査報告書第33集 佐賀県教育委員会 1976
   「姫方原遺跡-F 地区-」 中野建設・中野ハウジング 1981
   「姫方原遺跡-G 地区-」 中原町文化財調査報告書 中原町教育委員会 1982ほか
- (2) 「宝満谷遺跡」 北茂安町教育委員会 1980
- (3) 1982年上峰村教育委員会調査
- (4) 1982年上峰村教育委員会調査
- (5) 「下石動遺跡」九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報第4集 佐賀県教委1981
- (6) 「西石動遺跡」九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報第4集 佐賀県教委1981
- (7)「千塔山遺跡」基山町文化財調査報告書第3集 基山町遺跡発掘調査団 1978
- (8) 「城ノ上遺跡」基山町文化財調査報告書第2集 基山町遺跡発掘調査団 1977
- (9)「牟田辺遺跡」第1次・第Ⅱ次・第Ⅲ次 多久市教育委員会 1975・1977・1978

## 図 版







- 1. 町南遺跡 I 次調査区全景〈北から〉
- 2. 町南遺跡 I 次調査区全景〈北から〉

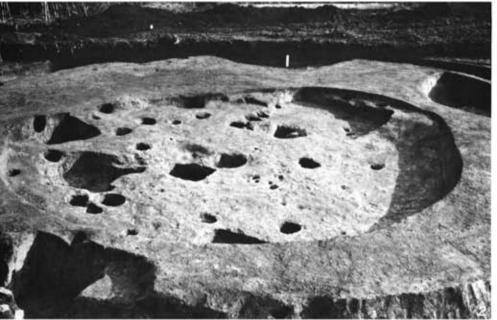






- 町南遺跡Ⅱ次調査区全景 (北西から)
- 町南遺跡Ⅲ次調査北部全景 〈西から〉
- 3. 町南遺跡Ⅲ次調査南部全景 〈東から〉







- 1. S B010住居跡(北から)
- 2. S B056住居跡 (北西から)
- 3. S B123住居跡 (西から)







- 1. SB009住居跡(北から)
- 2. SB044住居跡 (西から)
- 3. SB103住居跡(南から)

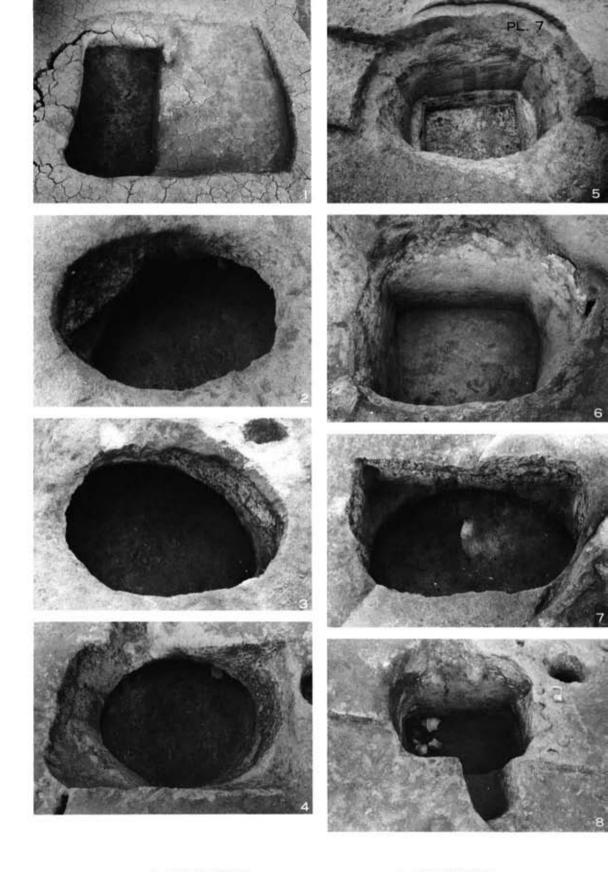






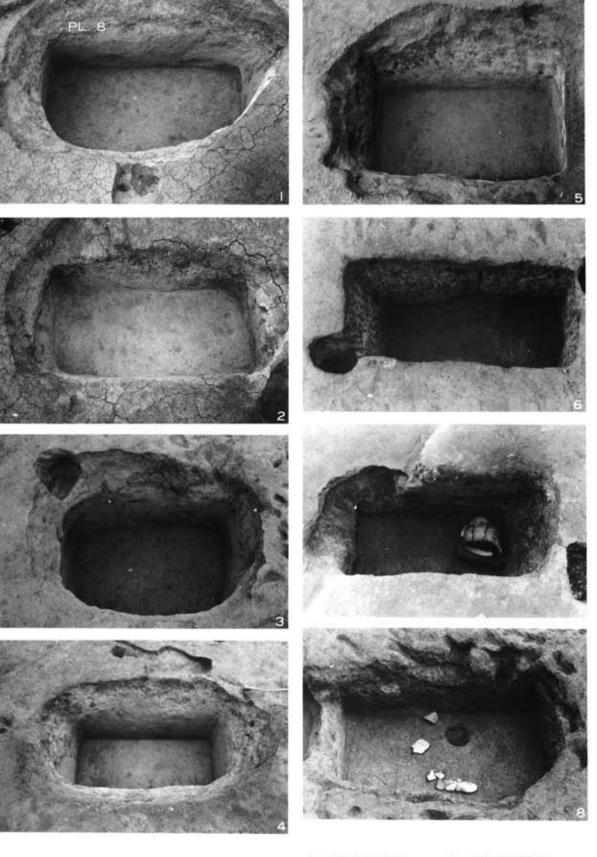
- 1. SB111住居跡(北から)
- 2. SB122住居跡(南から)
- 3. SB062掘立柱建物跡

(西から)



- 1. SK012貯藏穴
- 2. SK178貯蔵穴
- 3. SK190貯藏穴
- 4. S K 201 貯蔵穴

- 5. SK016貯蔵穴
- 6. SK 027 貯蔵穴
- 7. SK167貯蔵穴
- 8. SK191 貯蔵穴



- 1. SK013貯蔵穴
- 2. SK014 貯蔵穴
- 3. SK018貯蔵穴
- 4. SK 026 貯蔵穴
- 5. SK028貯蔵穴
- 6. SK153貯藏穴
- 7. SK172 貯蔵穴
- 8. S K 219 貯蔵穴







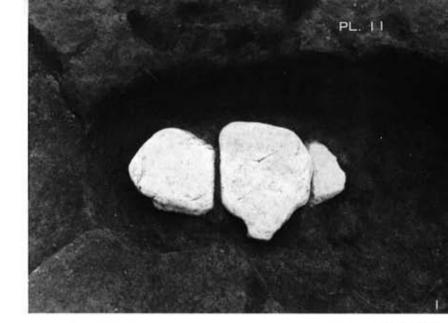
- 1. SD004溝 (南から) 2. SD042溝 (西から)
- 3. S D 042.066溝
  - (北西から)





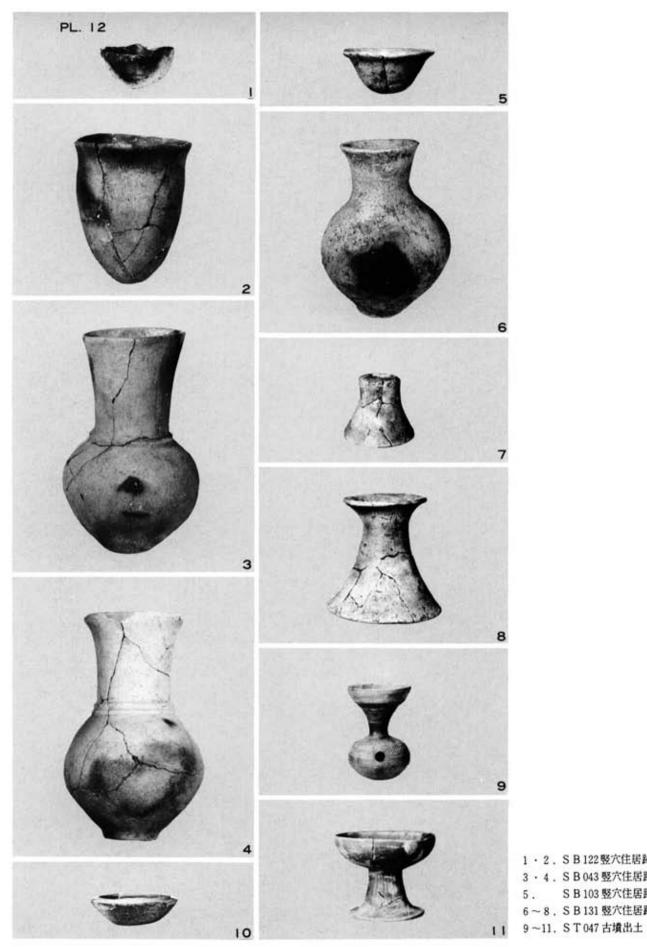


- 1. SD 042.066溝断面
  - (東から)
- 2. S X 055 円形周溝
  - (北から)
- 3、SX055円形周溝西部溝内 土器出土状況

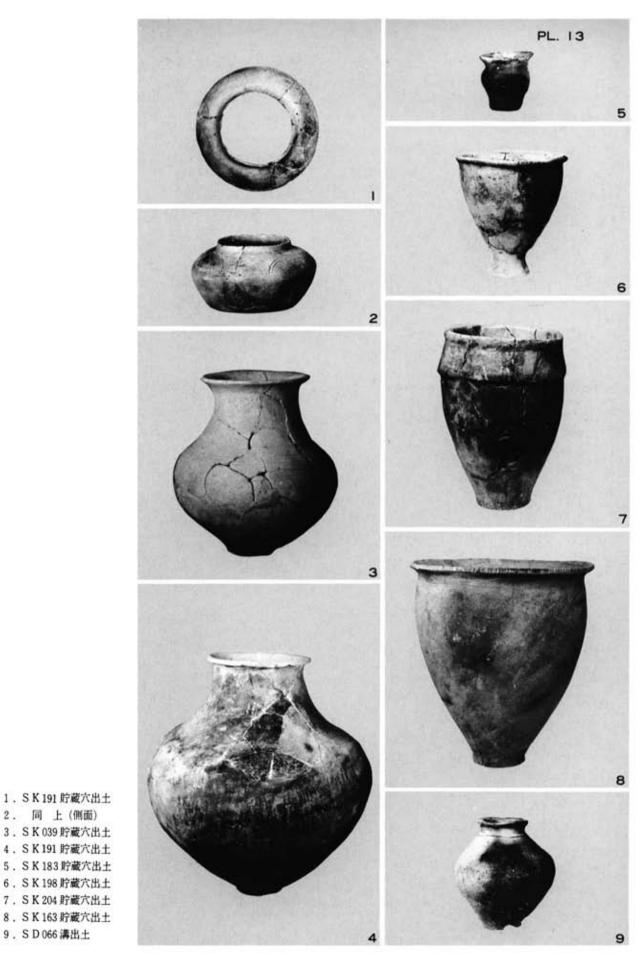




- 1. S P 227 石蓋土壤墓
- 2. ST047 古墳 (調査前)(西から)
- 3. ST047 古墳石室(西から)



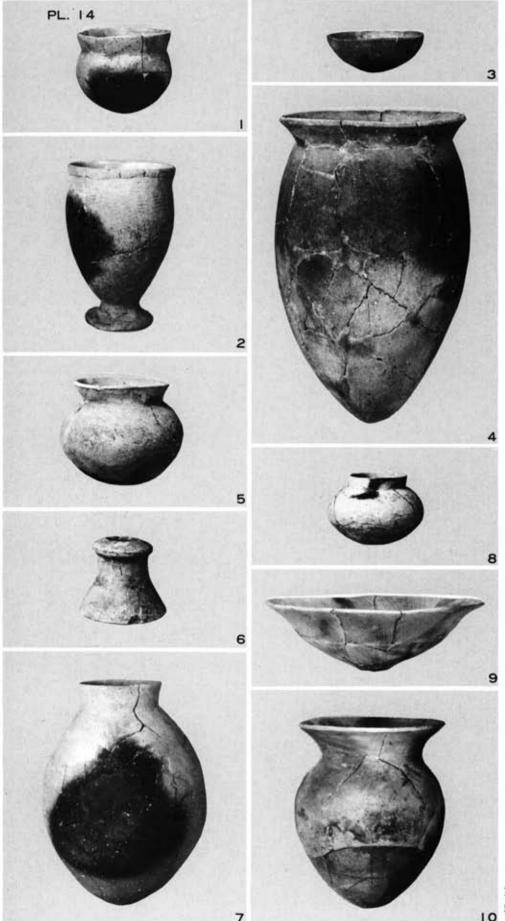
1 · 2 . S B 122竪穴住居跨出土 3 · 4 . S B 043 竪穴住居跡出土 5. SB103竪穴住居跡出土 6~8,SB131 竪穴住居跡出土



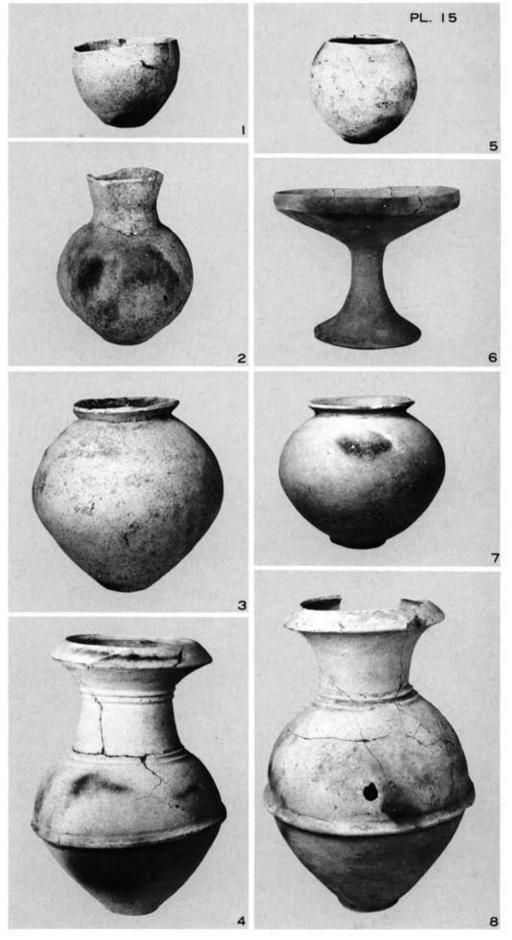
3. SK 039 貯藏穴出土 4. S K 191 貯蔵穴出土 5. SK 183 貯藏六出土 6. SK198 貯蔵穴出土 7. S K 204 貯蔵穴出土 8. S K 163 貯蔵穴出土

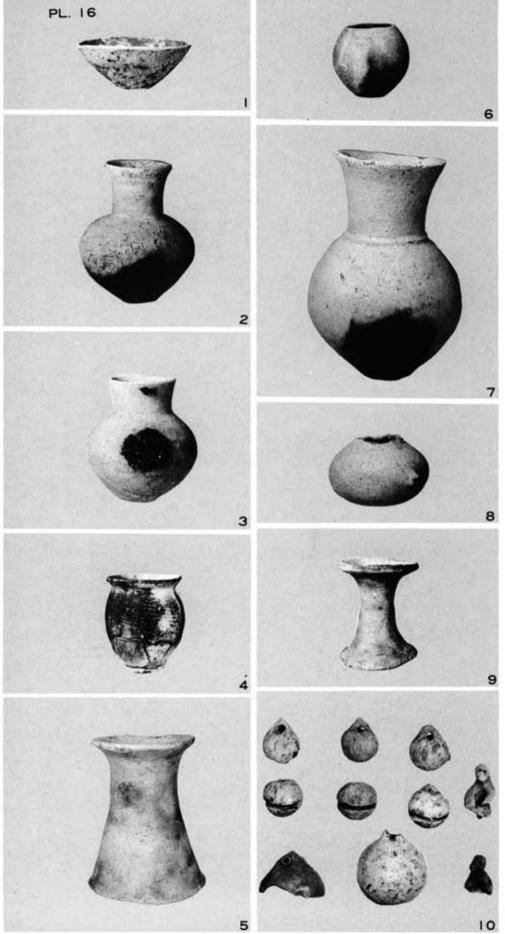
2. 同上(側面)

9. SD066溝出土

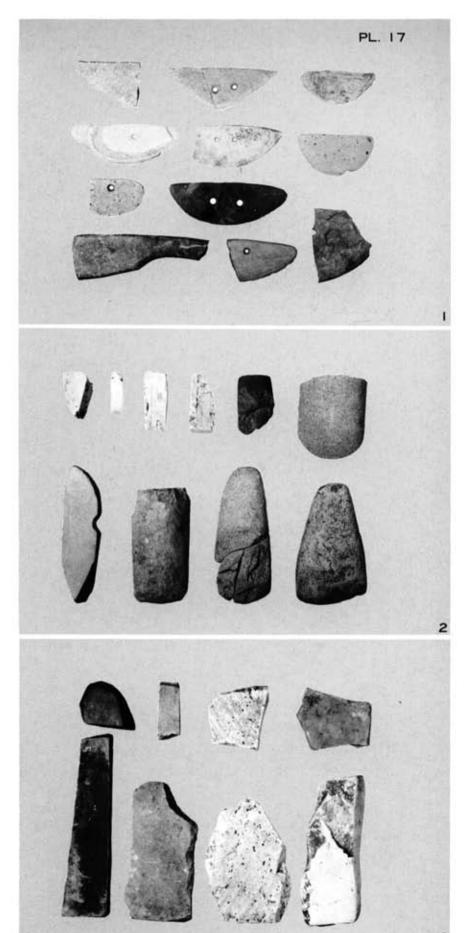


 $1\sim4$  、SD 004 溝出土  $5\sim$ 10、SD 223 溝出土

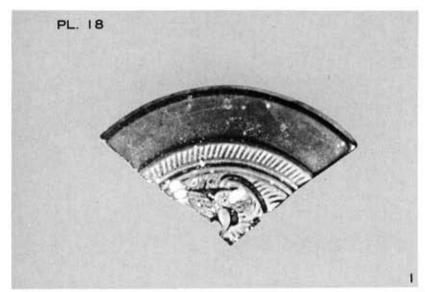


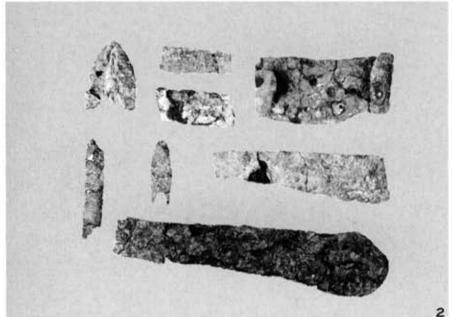


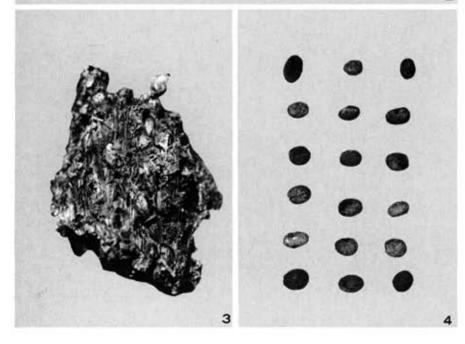
1~9. SD042溝出土 10. SK235土壌出土



- 1. 石包丁・石鎌
- 2. 石斧
- 3. 砥石







- 1. SB103竪穴住居跡出土
- 2. 鉄器
- 3. SK161出土炭化稲穂首
- 4. SK186出土炭化竪果

佐賀県文化財調査報告書第68集

町 南 遺 跡

昭和58年3月20日印刷 昭和58年3月31日発行

発 行 佐賀県教育委員会 佐賀市城内1丁目

印 刷 西部印刷企画株式会社

佐賀市鍋島町八戸1323-4

## 佐賀県文化財調査報告書第68集 町南遺跡巻末付録

町南遺跡遺構配置図

## 佐賀県文化財調査報告書第68集

## 町南遺跡遺構配置図 (½00)



